

講義概要

基礎分野

No.	科目名		学年	開講時期	備考
1	科学的思考の基盤	情報科学	1年生	後期	
2		経済学	3年生	前期	
3		教育学	2年生	後期	
4	人間と生活・社会の理解	心理学	1年生	前期	
5		文学	1年生	後期	
6		物理学	1年生	前期	
7		法学	1年生	前期	
8		人間関係学	1年生	後期	
9		国際文化論	1年生	前期	
10	保健体育	健康とスポーツ	1年生	前期	
11	外国語	英語Ⅰ	1年生	後期	
12		英語Ⅱ	2年生	前期	
13		中国語	2年生	後期	

【 区 分 】	基礎分野	【担当教員】 田中 環			
【 科 目 名 】	情報科学				
【開講時期】	1 年次 後期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】					
・情報の種類・取り扱いについて理解する					
・パソコンの基礎操作ができ、簡単なプレゼンテーションができる					
・看護に関する情報検索ができる					
【授業者】					
・本科目は大学において、情報の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う					
【事前・事後学習】					
・日本語のローマ字のつづりを予め確認しておくこと。					
・授業中に流れについて行けなかったり、欠席した場合は他に時間を設けて課題を完成させておくこと。					
・テーマ発表のための資料集めは事前に行っておくこと。					
【回数】	【講義項目】		【講義内容】		
1	機器操作入門と WindowsOS 及びメーラー設定				
2	マウス操作と文字入力練習（タッチタイプ）及びファイル操作				
3	ワープロソフト		Word の起動、機能説明、日本語入力		
4	ワープロソフト		切り貼り、文字位置、文字修飾		
5	ワープロソフト		図形の作成、画像の挿入と修飾		
6	表計算ソフト		Excel の起動、機能説明		
7	表計算ソフト		数式、関数		
8	表計算ソフト		書式、書体		
9	表計算ソフト		グラフの作成		
10	情報検索とプレゼンテーションの概要		看護に関する検索と Power Point の機能説明		
11	プレゼンテーションソフト		スライド作成		
12	プレゼンテーションソフト		メールでのファイル提出と発表練習		
13	看護に関するテーマ発表		実技試験		
14	看護に関するテーマ発表		実技試験		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】					
・科目終了試験を実施・筆記試験・レポート及び実技試験によって評価する					
【テキスト・教科書】					
・Microsoft Office2019 を使った情報リテラシーの基礎【近代科学社】					

【区 分】 基礎分野	【担当教員】 道上 真有	
【科目名】 経済学		
【開講時期】 3年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・市場経済の原理と実際を理解する ・経済政策の仕組みを理解する ・社会保障・雇用問題の視点をふまえて、社会政策の意義と実際を理解する ・世界の国々との比較の中で、日本の社会保障と経済の現状について理解する 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	経済の仕組み(1)	需要と供給、価格、マクロ経済
2	経済の仕組み(2)	GDP、有効需要、成長、景気
3	経済と政府、社会保障	財政政策、雇用、失業、社会保障
4	経済と金融、社会保障	金融政策、銀行、株式市場、年金
5	諸外国の経済と社会保障(1) アメリカ	アメリカの医療保険
6	諸外国の経済と社会保障(2) ヨーロッパ	ヨーロッパの医療保険
7	諸外国との比較でみた日本の社会保障	日本の社会保障の特徴
8	科目終了試験	
【評価方法】 筆記試験(80%) 出席点(20%)によって評価する		
【テキスト・教科書】 プリント配布 テキストは使用しません。 参考書 日経ビジネス編『日経ビジネス 日本経済入門』 日経BP社 2014年		

【区 分】	基礎分野		【担当教員】	渡邊 志織		
【科目名】	教育学					
【開講時期】	2年次	後期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】						
① 「教育とは何か」「教育とはいかにあるべきか」という根源的な問いについて、幅広い視野で考え、教育学の基礎的な知識を習得する。						
② 人間の発達をふまえ、家庭教育、学校教育それぞれの意義と役割について理解する。						
③ 現代の子どもをめぐる諸問題（いじめ、体罰、虐待、貧困）について理解し、医療者として必要な実践的対応力を習得する。ディスカッションでは、自己の意見を適切に述べる。						
【事前・事後学習】事前に講義レジュメ等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。						
【回数】	【講義内容】					
1	Ⅰ 授業の概要―教育とは何か―					
2	Ⅱ 教育と看護―医療者として教育を学ぶ意義―					
3	Ⅲ 教育の歴史的変遷―戦前―					
4	Ⅲ 教育の歴史的変遷―戦後―					
5	Ⅳ 義務教育の制度					
6	Ⅴ 教育における平等					
7	Ⅵ 教育課程と教師の役割					
8	Ⅶ 学校教育における「命」の学び					
9	Ⅷ 人間の発達と教育					
10	Ⅸ 家庭教育					
11	Ⅹ 子どもをめぐる諸問題①体罰とは何か					
12	Ⅹ 子どもをめぐる諸問題②体罰がおよぼす弊害					
13	Ⅺ 子どもをめぐる諸問題①虐待とは何か					
14	Ⅺ 子どもをめぐる諸問題②虐待の早期発見と対応					
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り					
【評価方法】最終試験を実施する。						
【テキスト・教科書】						
なし。毎回、配布するレジュメ・資料に沿って講義を行う。						

【 区 分 】 基礎分野		【担当教員】 宮岡 里美・長谷川 千種	
【科 目 名】 心理学			
【開講時期】 1 年次 前期		【単位数】 1 単位	【コマ数】 1 5 コマ
【科目目標】 ・人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、理解することができる ・自己自身の心のはたらきを客観的に把握することができる ・患者様の行動特性、性格、感情、認知機能などを理解し、適切な配慮ができる			
【事前・事後学習】 事前に指定教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習することが望ましい。講義で用いるスライドや関連資料は、講義前に配布します。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【担当】
1	第2章 感覚と知覚	・知覚の成立と諸相 ・錯視/錯覚 ・社会的知覚	宮岡
2	第3章 記憶	・記憶のメカニズム ・忘却/記憶の歪み/病理	宮岡
3	第4章 思考・言語	・問題解決 ・推論 ・創造性 ・言語の発達と思考	宮岡
4	第4章 知能	・知能とは ・知能の測定 ・知的障害	宮岡
5	第5章 学習Ⅰ	・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ	宮岡
6	第5章 学習Ⅱ	・社会的学習 ・技能学習 ※1-6 コマのまとめ	宮岡
7	第6章 感情	・感情の分類とメカニズム ・フラストレーション	宮岡
8	第6章 動機づけ	・葛藤/欲求不満 ・自己効力感 ・学習性無力	宮岡
9	第7章 パーソナリティ	・性格の理論 ・性格の測定 ・パーソナリティの障害	宮岡
10	第8章 発達Ⅰ	・遺伝と環境 ・発達段階と発達課題 ・誕生～児童期	宮岡
11	第8章 発達Ⅱ	・青年期 ・成人期 ・高齢期	宮岡
12	第10章 ストレス	・ストレス理論 ・心の適応と不適応 ・対処行動	宮岡
13	心理臨床演習(1)	・来談者中心療法と認知行動療法	長谷川
14	心理臨床演習(2)	・医療・看護職の心のケア	長谷川
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		宮岡
【評価方法】 ・最終の15 コマ目に試験を実施します。また、課題レポートや演習への参加態度も考慮し、総合的に評価します。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 基礎⑥心理学【医学書院】			

【区 分】	基礎分野		【担当教員】	藤田 善思		
【科目名】	文学					
【開講時期】	1年次	後期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】						
・日本文学史を学び各時代の作品読解を通して、その時代人の情緒、感性を学ぶ。 併せて現代を生きる自己の人格陶冶に資することとする ・表現学習を通して表現力を養い、社会生活に資することとする。						
【事前・事後学習】						
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。						
【回数】	【講義項目】		【講義内容】			
1	文学通史・概論		上 代 古事記			
2	〃		〃 万葉集 他			
3	〃		中 古 物語文字			
4	〃		〃 歌謡 他			
5	〃		中 世 徒然草			
6	〃		〃 平家物語 他			
7	〃		近 世 俳諧・世証物 他			
8	〃		近現代 小説（明治・大正）			
9	〃		〃 〃（戦前）			
10	〃		〃 〃（戦後）			
11	〃		〃 詩歌			
12	〃		〃 評論			
13	表現演習		語彙論			
14	〃		文体論、総合			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り					
【評価方法】						
・科目終了試験を実施						
【テキスト・教科書】						
・プリント配布						

【区 分】 基礎分野	【担当教員】 佐藤 真樹	
【科目名】 物理学		
【開講時期】 1 年次 前期	【単位数】 1 単位	【コマ数】 1 5 コマ
【科目目標】 ・物理学がどのように医療に応用されているか理解できる ・日常使われている原理から基本的な物理的法則を理解できる 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験・臨床工学技士の資格を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習しておくこと ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	物理学とは	物理学とは 物理量と単位 力とベクトル 力とは 力のモーメントとは
2	重いものをもつこと	てこの原理と人体の関係性 腰にかけること 姿勢
3	ボディメカニクスと物理	【演習】患者の体位と看護師の動作の関連
4		患者の体位と看護師の動作の関連
5		ボディメカニクスの物理的重点
6	圧力の及ぼす影響	圧力と気圧の関係
7		血液循環と血圧の関係
8		注射針と圧力
9		体を支える圧力
10	呼吸器と吸引の原理	呼吸運動のメカニズム
11		ドレナージ、サイフォンの原理
12	点滴静脈内注射と物理	点滴ボトルの高さと圧力の関係
13		【演習】ドレナージ、サイフォン
14	感覚器と原理	感覚刺激と機能の関係
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・看護学生のための物理学 第5版 【医学書院】		

【区 分】	基礎分野	【担当教員】 小泉 明子			
【科目名】	法学				
【開講時期】	1年次 前期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】 ・社会生活において法が果している役割を理解する					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】				
1	立憲主義とは何か				
2	憲法の成り立ち				
3	日本国憲法総論(国民主権、基本的人権の尊重)				
4	統治機構総論				
5	統治機構①				
6	統治機構②				
7	統治機構③				
8	統治機構④				
9	基本的人権総論				
10	基本的人権①				
11	基本的人権②				
12	基本的人権③				
13	基本的人権④				
14	平和主義ーおよびその変容(集団的自衛権)				
15	科目終了試験				
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】 ・目で見える憲法 第5版【有斐閣】					
【サブテキスト】 ・ポケット六法 2021年度版【有斐閣】					

【 区 分 】	基礎分野	【担当教員】 宮岡 里美・向田 怜史			
【 科 目 名 】	人間関係学				
【開講時期】	1 年次 後期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・人間関係の基礎的知識を学ぶ ・人間関係を築く技法を学び、目的に応じて相互関係を展開する能力を養う ・看護師として臨床の場で求められるホスピタリティマインドを身につける					
【授業形態】 講義（一部に演習を含む）					
【事前・事後学習】 事前に指定教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等で授業内容の復習することが望ましい。講義で用いるスライドや関連資料は、講義前に配布します。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			【担当】
1	第1章 人間関係の中の自己と他者	・自己認知 ・対人認知 ・印象形成			宮岡
2	第2章 対人関係と役割	・対人関係理論 ・対人葛藤 ・社会的役割			宮岡
3	第3章 態度と対人行動(1)	・態度 ・認知的不協和 ・説得（態度の変容）			宮岡
4	第3章 態度と対人行動(2)	・攻撃性 ・傍観者効果 ・援助行動			宮岡
5	第4章 集団と個人	・集団の特性 ・社会的影響			宮岡
6	第5章 コミュニケーション	・対人コミュニケーションとその障害			宮岡
7	第6章 カウンセリングと心理療法	カウンセリング・心理療法の理論とスキル			向田
8	第7章 コーチング	コーチングの理論とスキル			向田
9	第8章 アサーティブコミュニケーション	アサーションの理論とスキル			向田
10	第9章 保健医療チームの人間関係	医療におけるチームと看護師の役割			向田
11	第10章 患者を支える人間関係(1)	患者と医療者の関係(1)			向田
12	第10章 患者を支える人間関係(2)	患者と医療者の関係(2)			向田
13	第11章 家族を含めた人間関係	家族関係のシステムや理論			向田
14	第12章 地域をつくる人間関係	地域社会やそれを取り巻く環境について			向田
15	科目終了試験、試験の解説、演習の振り返り				
【評価方法】 ・最終の15 コマ目に試験を実施します。 また、課題レポートや演習への参加態度も考慮し、総合的に評価します。					
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 基礎分野「人間関係論」【医学書院】					

【区 分】	基礎分野	【担当教員】 村上 吉男			
【科目名】	国際文化論				
【開講時期】	1 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 国際文化を今日までのフランス（の文化）に例をとって、以下に記す講義内容で学ぶことがこの授業科目の目標になります。					
【授業者】 本科目は大学において、基礎分野（教養）の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う					
【事前・事後学習】 事前に高校時代の「世界史」「日本史」教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】			【備考】	
1	論文やレポートの書き方				
2	今日までの世界（や日本）を一眸（一望）する ①文化（文明）とは何か				
3	②時代を知る				
4	③フランス文化を知る				
5	④自然はどう捉えられたか				
6	⑤神はどう捉えられたか				
7	⑥人間と社会はどう捉えられたか				
8	⑦先進国と後進国（発展途上国）とは				
9	⑧神中心主義と人間中心主義とは				
10	⑨キリスト教と仏教とは				
11	⑩ギリシア科学、近代・現代科学とは				
12	⑪脳死の問題（西洋医学と東洋医学）とは				
13	⑫コンピューター時代とは				
14	まとめ				
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り				
【評価方法】 ・レポートによって評価する					
【テキスト・教科書】 ・適宜プリント配布					

【区 分】 基礎分野	【担当教員】 岡野 崇彦	
【科目名】 健康とスポーツ		
【開講時期】 1年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・身体を動かすことの意識を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を習得する ・運動やスポーツ、レクリエーション活動の中から、技術・方法と併せて、コミュニケーションの楽しさ、生涯スポーツとしての楽しみ方、スポーツを通して支援のあり方等について習得する 【授業者】 本科目は実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前に配布資料を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	オリエンテーション	学内
2	体力を知る 柔軟性 筋力について	学内
3	体力を知る 全身持久力について	学内
4	柔軟性を高める ストレッチの方法（1）	学内
5	柔軟性を高める ストレッチの方法（2）	学内
6	筋力を高める 筋力トレーニングの方法（1）	学内
7	筋力を高める 筋力トレーニングの方法（2）	学内
8	全身持久力を高める 有酸素運動の方法（1）	学内
9	全身持久力を高める 有酸素運動の方法（2）	学内
10	軽スポーツ	学内
11	軽スポーツ	学内
12	軽スポーツ	学内
13	軽スポーツ	学内
14	体力の確認	学内
15	まとめ 講義の振り返り レポートの書き方	学内
【評価方法】 ・出席状況とレポートによって総合的に評価する		
【テキスト・教科書】 ・適宜プリント配布		

【区 分】	基礎分野	【担当教員】 渋谷 啓			
【科目名】	英語 I				
【開講時期】	1 年次 後期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・様々な文化・生活習慣・ニーズに対応できる基礎的媒体手段としての英語力を習得し、実践を目指す。 ・看護に必要な情報源としての英語の基礎的知識を習得する。					
【授業者】 ・本科目は高等学校において、英語の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う。					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】		【講義内容】		
1	オリエンテーション		自己紹介を兼ねて学生の英語能力を調べる 講義の進め方について説明		
2	テキスト Unit1 履修と英文読解		急に話しかけられたときの対応		
3	テキスト Unit2 履修と英文読解		自己紹介の際の質問と答え方		
4	テキスト Unit3 履修と英文読解		患者への質問例①		
5	テキスト Unit4 履修と英文読解		患者への質問例②(診療申込書記入)		
6	テキスト Unit5 履修と英文読解		道順の尋ね方、答え方		
7	テキスト Unit6 履修と英文読解		症状の尋ね方①		
8	テキスト Unit7 履修と英文読解		症状の尋ね方② 人体各部の名称		
9	テキスト Unit8 履修と英文読解		病歴の尋ね方		
10	テキスト Unit9 履修と英文読解		薬の服用に関する表現		
11	テキスト Unit10 履修と英文読解		予約の取り方、時間の表現、検査の表現		
12	テキスト Unit11 履修と英文読解		手術に関する表現		
13	テキスト Unit12 履修と英文読解		入院患者によくする質問		
14	テキスト総復習		ペアー・ワーク（実演）と英文読解		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・科目修了試験を実施 ・筆記試験によって評価する。					
【テキスト・教科書】 ・クリスティーンのやさしい看護英会話【医学書院】					

【 区 分 】	基礎分野	【担当教員】 渋谷 啓			
【 科 目 名 】	英語Ⅱ				
【開講時期】	2 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・英語Ⅰで既習の英語表現を踏まえた上で、さらにレベルアップした英語表現を駆使した医学英語を習得する。 ・英語の知識を習得し、実際の対応に役立てることを目指す。					
【授業者】 ・本科目は高等学校において、英語の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う。					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をしておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	オリエンテーション	講義の進め方と初対面のあいさつの復習 (英語Ⅰで既習の内容復習)			
2	テキストUnit1 と英文読解	困った時の英語、診療科名、患者の基本情報			
3	テキストUnit2 と英文読解	診療手続き/症状			
4	テキストUnit3 と英文読解	入院時オリエンテーション			
5	テキストUnit4 と英文読解	病歴の聴取/病名			
6	テキストUnit4,5 と英文読解	検査と患者への指示のし方			
7	テキストUnit5,6 と英文読解	産婦人科、小児科、予防接種			
8	テキストUnit6,7 と英文読解				
9	テキストUnit7 と英文読解				
10	テキストUnit8 と英文読解	手術、手術後、日常看護			
11	テキストUnit8,9 と英文読解				
12	テキストUnit9 と英文読解				
13	テキストUnit10 と英文読解	心のケア、宗教や文化の違い			
14	テキスト総復習	ペアワークによるまとめと復習総解説			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・科目修了試験を実施 ・筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】 ・クリスティーンのレベルアップ看護英会話【医学書院】					

【区 分】 基礎分野	【担当教員】 小池 郁代	
【科目名】 中国語		
【開講時期】 2年次 後期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・中国語の基礎発音、単語、文法を理解し、医療現場で使われる常用会話を習得する。 ・練習問題とリスニング練習を通して、基本的な中国語コミュニケーション能力を身につけることを目指す。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目・講義内容】	【備考】
1	単母音と声調、挨拶・自己紹介、人称代名詞について	
2	子音、音節構造、動詞述語文について、肯定と否定の表現、質問と疑問の表現	
3	復母音、病院の受付でのやりとり、指示代名詞について、	
4	鼻母音、r 化音について、家族親族の呼び方	
5	声調の変化、病院内に診察室を尋ね方、方位詞について	
6	症状の尋ね方、症状についての表現、形容詞述語文について	
7	診察室にて看護師との会話、数字の表現	
8	医師、患者との会話、疑問詞疑問文、色々な症状の表現	
9	お薬を処方する、薬の服用に関する表現、量詞のいろいろ	
10	再診について、年月日、曜日の表現、時刻の言い方	
11	「できる」と「できない」の表現、	
12	予防接種に関する表現、	
13	人体各部の名称、会話のトレーニング	
14	日本語の漢字と中国語の漢字の比較	
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・初級 メディカル実践中国語 【朝日出版社】		

専門基礎分野

No.	科目名		学年	開講時期	備考
14	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1年生	前期	
15		解剖学Ⅱ	1年生	後期	
16		生理学Ⅰ	1年生	前期	
17		生理学Ⅱ	1年生	後期	
18		生化学	1年生	前期	
19	疾病の成立と回復の促進	病理学	1年生	前期	
20		疾病学Ⅰ	1年生	後期	
21		疾病学Ⅱ	1年生	後期	
22		疾病学Ⅲ	2年生	前期	
23		疾病学Ⅳ	1年生	後期	
24		疾病学Ⅴ	1年生	後期	
25		病原微生物学	1年生	後期	
26		臨床栄養学	1年生	前期	
27		薬理学	2年生	前期	
28		治療論	2年生	前期	
29		リハビリテーション概論	2年生	前期	
30	健康支援と社会保障制度	社会福祉学	2年生	前期	
31		公衆衛生学	1年生	前期	
32		関係法規	3年生	後期	
33		医療概論	1年生	前期	
34		東洋医療	2年生	前期	
35		生命倫理	3年生	前期	

【科目名】	解剖学Ⅰ		【担当教員】	西野 幾子		
【区分】	専門基礎分野					
【開講時期】	1 年次	前期	【単位数】	1 単位	【時間数】	30 時間
【科目目標】						
・ 生命現象の基本である、呼吸・循環の働きを理解する						
・ 人体の構造に関する基礎的知識を習得する						
【授業者】						
本科目は実務経験を有する教員が講義を行う						
【事前・事後学習】						
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。						
【回数】	【講義内容・講義項目】					
1	人体の基本構造 (1) 細胞と組織 (2) 器官系と器官					
2	人体の基本構造 (3) 人体の形状および方向と位置を示す用語 人体の働き方 受精、初期発生、胎児の発生					
3	消化器系 (1) 口腔から肛門まで					
4	消化器系 (2) 肝臓・胆嚢・膵臓 (3) 腹膜					
5	呼吸器系 鼻腔から気管・気管支、肺、胸膜と縦隔					
6	泌尿器系 腎臓、尿管、膀胱、尿道					
7	循環器系 (1) 循環器の構成 (2) 心臓					
8	循環器系 (3) 血管の構造 (4) 肺循環					
9	問題演習					
10	循環器系 (5) 体循環の動脈 (6) 体循環の静脈					
11	循環器系 (7) 胎児循環 (8) リンパとリンパ管、脾臓					
12	生殖器系 (1) 男性生殖器					
13	生殖器系 (2) 女性生殖器					
14	内分泌系 下垂体、甲状腺、副腎					
15	科目終了試験					
【評価方法】						
・ 科目終了試験を実施する。						
・ 試験と講義中に行う小テストなどを総合して評価する。						
【テキスト・教科書】						
・ 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学【医学書院】						

【科目名】	解剖学Ⅱ		【担当教員】	西野 幾子		
【区分】	専門基礎分野					
【開講時期】	1年次	後期	【単位数】	1単位	【時間数】	30時間
【科目目標】						
・人体の構造に関する基礎的知識を習得する						
・骨と関節、骨格筋の形態を理解する						
【授業者】						
本科目は実務経験を有する教員が講義を行う						
【事前・事後学習】						
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。						
【回数】	【講義内容・講義項目】					
1	神経系 神経系の概要、中枢神経系 (1) 脊髄					
2	中枢神経系 (2) 脳幹①					
3	脳幹②、脳神経①					
4	脳神経②					
5	自律神経					
6	中枢神経系 (3) 小脳と間脳					
7	中枢神経系 (4) 大脳①					
8	大脳②					
	中枢神経系 (5) 脳室と髄膜・脳脊髄液					
9	中枢神経系 (6) 伝道路上行性（知覚性）と下行性（運動性）					
	中枢神経系 (7) 中枢神経の脈管					
10	骨格系 (1) 骨の形態と構造、組織と組成、発生と成長					
	骨格系 (2) 関節					
11	骨格系 (3) 全身の骨格					
	筋系 (1) 骨格筋と脊髄神経					
12	筋系 (2) 体幹と上肢の骨格筋					
13	筋系 (3) 下肢と背部の骨格筋					
14	感覚器系 (1) 皮膚の構造と機能					
	感覚器系 (2) 聴覚器、視覚器、嗅覚器					
15	科目終了試験					
【評価方法】						
・科目終了試験を実施する。						
・試験と講義中で行う小テストなどを総合して評価する。						
【テキスト・教科書】						
・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学【医学書院】						

【区 分】	専門基礎分野	【担当教員】 飯島 淳彦			
【科目名】	生理学Ⅰ				
【開講時期】	1年次 前期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】					
・人間の生物学的側面を理解する					
・人体の機能に関する基礎的知識を習得する					
【授業者】					
本科目は実務経験を有する教員が講義を行う					
【事前・事後学習】					
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	生理学の基礎	生理機能の特徴、細胞の構造と機能 物質代謝			
2	生理学の基礎				
3	体液組成、血液組成	血液の組成と働き			
4	循環①	心臓の構造と働き、血液循環、循環調節、リンパ系			
5	循環②				
6	呼吸①	呼吸器、換気とガス交換、呼吸運動とその調節			
7	呼吸②				
8	消化と吸収①	消化器系の構造と働き、消化管の運動、消化液、 吸収、肝臓の働き			
9	消化と吸収②				
10	体温	体温調節、体熱の産生と拡散、体温調節障害			
11	腎機能と排泄機能①	腎臓の働き、腎循環、尿生成、腎臓と体液の調節、蓄尿と 排尿			
12	腎機能と排泄機能②				
13	内分泌①	ホルモンの特徴、ホルモンの種類と働き			
14	内分泌②				
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】					
・科目終了試験を実施					
・筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】					
・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学【医学書院】					

【 区 分 】 専門基礎分野		【担当教員】 飯島 淳彦	
【 科 目 名 】 生理学Ⅱ			
【開講時期】 1 年次 後期		【単位数】 1 単位	【コマ数】 1 5 コマ
【科目目標】 ・人間の生物学的側面を理解する ・神経系の仕組みと働きを理解する ・感覚情報の処理と認識のしくみを理解する 【授業者】 ・本科目は実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	
1	生殖	男性・女性生殖器、妊娠と出産、成長、加齢変化	
2	成長と老化		
3	神経①	ニューロンの構造と働き、神経線維の興奮伝導、シナプス伝達、中枢神経系の分類と機能、反射、脳幹、小脳、視床、大脳、末梢神経系、自律神経系	
4	神経②		
5	神経③		
6	筋	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、エネルギー供給	
7	運動①	骨格筋の神経支配、運動の調節、錐体路系と錐体外路系	
8	運動②		
9	感覚①	感覚の分類、体性感覚、味覚と嗅覚、聴覚、平衡感覚、視覚	
10	感覚②		
11	生体の防御機能	防御機構、免疫反応	
12	自律神経調節	自律神経系の概要、自律神経節	
13	身体活動の協調	生体の恒常性とリズム	
14	病態生理の理解に向けて		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野	【担当教員】 三上 正人	
【科目名】 生化学		
【開講時期】 1年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・細胞と生体物質の構造・機能・代謝を理解する ・遺伝子発現のメカニズムを理解する 【授業者】 ・本科目は実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	生化学を学ぶための基礎知識	細胞の構造と機能
2	生体分子 糖質・脂質	糖質・脂質とは、糖質・脂質の種類
3	生体分子 タンパク質・核酸	タンパク質とは、タンパク質の分類、核酸の種類
4	酵素についての基礎知識	生命活動と酵素、酵素反応、酵素の分類
5	糖質代謝・脂質代謝	グルコース分解、糖新生、ペントースリン回路、グリコーゲン代謝、脂肪酸分解
6	エネルギー代謝	消化・吸収された栄養素の代謝
7	遺伝情報とその発現	遺伝子の複製・転写・翻訳
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専基②生化学 【医学書院】		

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 飯岡 英和			
【 科 目 名 】	病理学				
【開講時期】	1 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 医療行為を行う者に求められる、疾病の原因・発生機序についての幅広い知識の習得を目的とする					
【授業者】 本科目は実務経験を有する教員が講義を行う					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	病理学とは 病気の原因	看護と病理学、病気の原因（内因、外因）、疾病の分類			
2	細胞・組織の障害と修復	細胞の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒			
3	循環障害（1）	浮腫、充血、鬱血、出血			
4	循環障害（2）	血栓、塞栓、虚血、高血圧、DIC			
5	炎症と免疫、移植と再生医療 1	炎症と分類、免疫と免疫不全			
6	炎症と免疫、移植と再生医療 2	アレルギー、自己免疫疾患			
7	炎症と免疫、移植と再生医療 3	移植と再生医療			
8	感染症	感染と宿主の防御機構、病原体と感染症			
9	代謝障害	脂質・蛋白、糖質代謝異常			
10	老化と死	老年症候群、個体の死と終末期医療			
11	先天障害と遺伝子異常 1	先天異常、遺伝性疾患、染色体異常による疾患			
12	先天障害と遺伝子異常 2	胎児の異常、先天異常、遺伝性疾患の診断			
13	腫瘍 1	腫瘍の定義・分類、悪性腫瘍の広がりと影響			
14	腫瘍 2	腫瘍の発生原理、診断と治療、統計			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎 病理学【医学書院】					

【区 分】 専門基礎分野	【担当教員】 齊藤 静子	
【科目名】 疾病学Ⅰ		
【開講時期】 1年次 後期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・内分泌、栄養代謝系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法を理解する。 【授業者】 ・本科目は看護師の資格を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はテキストや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	栄養の摂取・吸収機能の障害	栄養バランスの不均衡による疾患 内分泌器官の構造、ホルモンの機能
2		栄養バランスの不均衡による疾患 全身・神経症状
3		栄養バランスの不均衡による疾患 ホルモン検査、糖尿病の診断・治療に関連した検査
4		栄養バランスの不均衡による疾患 糖尿病(1)
5		栄養バランスの不均衡による疾患 糖尿病(2)
6	内部環境調節機能の障害	甲状腺、副甲状腺疾患
7	代謝機能の障害	脂質代謝、肥満、メタボリックシンドローム、痛風
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学[6] 内分泌・代謝 【医学書院】		

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 田沼 順一			
【 科 目 名 】	疾病学Ⅱ				
【開講時期】	1 年次 後期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・消化器系、呼吸器系、循環器系、血液・造血系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する					
【授業者】 ・本科目は医師の資格を有する教員が講義、演習を行う					
【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	栄養の摂取・吸収機能の障害	消化管の疾患（食道癌、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、イレウス）			
2		消化管の疾患（腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸がん、虫垂炎）			
3		肝臓の疾患（肝と黄疸、肝炎、肝硬変、肝がん）			
4		肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 （胆石症、胆のう炎、急性膵炎、慢性膵炎、膵がん）			
5	呼吸機能の障害	肺機能検査、肺活量、1 秒量、1 秒率、COPD、間質性肺炎			
6		気道と肺の疾患 （気道・肺の炎症、気道閉塞をきたす疾患、呼吸不全、気胸）			
7		肺循環障害（肺梗塞、肺塞栓、肺結核、ツ反、BCG）			
8		じん肺、肺腫瘍、呼吸器症状のまとめ			
9	循環機能の障害	血管系の疾患 （循環と血圧、調節因子、動脈硬化症、高血圧、静脈血栓症）			
10		血管系の疾患（不整脈、心電図、房室ブロック、ペースメーカー、AED）			
11		心臓の疾患（虚血性心疾患、心筋症、心不全、不整脈）			
12	造血機能の障害	造血器の疾患（造血、貧血、再生不良性貧血）			
13		造血器の疾患（出血傾向と凝固・線溶系の異常）			
14		造血器の疾患（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】・科目終了試験を実施・筆記試験によって評価する。					
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[3]循環器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5]消化器 【医学書院】					
【サブテキスト】 ・わかりやすい病理学 改訂第7版 【南江堂】					

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 佐藤 真樹・大野 直子・大野 享	
【 科 目 名 】	疾病学Ⅲ		
【開講時期】	2 年次 前期	【単位数】 1 単位	【コマ数】 1 5 コマ
【科目目標】 ・脳神経・運動器系の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【担当】
1	神経機能の障害	脳・神経障害とは おもな症状とその病態生理 (意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・感覚機能障害・自律性のある機能の障害)	佐藤
2		おもな症状とその病態生理 (頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア・髄膜刺激症状・頭痛・めまい)	佐藤
3		脳血管障害 (クモ膜下出血・脳出血・もやもや病)	佐藤
4		脳血管障害 (脳梗塞・脳腫瘍)	佐藤
5		末梢神経障害 (ギランバレー症候群・顔面神経麻痺)	大野直子
6		筋・神経筋接合部疾患 (筋ジストロフィー・重症筋無力症)	大野直子
7		脱髄・変性疾患・てんかん (多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症)	大野直子
8	運動機能の障害 (骨・関節・筋肉・神経筋接合部の疾患)	骨折総論、外傷総論①	大野享
9		骨折総論、外傷総論②	大野享
10		骨折、外傷の手術療法および治療①	大野享
11		骨折、外傷の手術療法および治療②	大野享
12		骨腫瘍、軟部腫瘍、脊髄腫瘍	大野享
13		脊髄損傷と機能障害	大野享
14		変形性関節症 (OA)、慢性関節リウマチ	大野享
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】・疾病学Ⅲのすべての授業終了後に終了試験を実施する ・基本的に筆記試験で評価するが、 <u>学習態度も評価対象</u> とする ・解剖学的知識については事前学習して参加することが望ましい			
【テキスト・教科書】 基本的に教員作成のハンドアウト (配布資料) を中心に授業を行う ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 【医学書院】			

【区 分】 疾病学Ⅳ	【担当教員】 高橋 美英子	
【科目名】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次 後期	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・女性生殖器疾患患者への診療・看護の変化や倫理的問題を理解する。 ・発達過程ごとの特徴と疾患、治療・看護の特徴を理解する。 ・身体的問題、心理・社会的問題、家族の援助における看護の役割を理解する。 【授業者】 ・本科目は助産師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【授業形態】 ・講義 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	女性生殖器を学ぶための基礎知識	女性生殖器の構造 症状と病態生理 診察法と検査法
2	生殖器の疾患	月経異常・月経随伴症状、更年期障害
3		乳房疾患
4		性器の炎症・性感染症・骨盤内疾患
5		子宮・卵巣の疾患
6		不妊症・不育症、避妊、
7	セクシャリティに関連する健康課題	性分化疾患、性器形成異常、
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ナースンググラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 【メディカ出版】第1版 【参考書】 ・病気がみえる Vol⑨、婦人科・乳腺外科 【メディックメディア】第4版 ・婦人科・乳腺外科疾患 ビジュアルブック 第2版 【学研】		

【 区 分 】 専門基礎分野		【担当教員】 佐藤 律子・西川 元	
【 科 目 名 】 疾病学Ⅴ			
【開講時期】 1 年次 後期		【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・腎機能系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し治療の方法を理解する ・エイズ、自己免疫疾患の疾病について基礎知識を習得し治療方法を理解する			
【授業者】 ・本科目は専門分野の資格、看護学教育の経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	
1	免疫機能の障害	アレルギー性疾患 (生体防御、免疫、アレルギー反応 (Ⅰ～Ⅳ)、喘息 アナフィラキシー)	佐藤
2		膠原病 (全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群)	佐藤
3		免疫不全 (感染症、S I R S、鳥インフルエンザ、A I D S)	佐藤
4	排泄機能の障害	泌尿器の疾患 乏尿、無尿、多尿、急性腎不全、酸・塩基平衡	西川
5		泌尿器の疾患 糸球体腎炎 (C K D)、血尿、蛋白尿、高血圧、浮腫、 食事と水分	西川
6		泌尿器の疾患 ネフローゼ症候群、腎硬化症、腎盂腎炎、尿路感染、 失禁、妊娠	西川
7		泌尿器の疾患 慢性腎不全、透析療法	西川
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚【医学書院】			

【区 分】	専門基礎分野	【担当教員】	平田 恒彦		
【科目名】	病原微生物学				
【開講時期】	1年次 後期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】					
・微生物の実際を知り、そうした微生物がどのような感染症を引き起こすかを理解する。 ・その感染症を防止する対策の在り方を医療現場との関連において具体的にどのようなものであるか、その理解を深めるようにする。					
【授業者】					
・本科目は看護学教育、臨床検査等の教育経験を持つ教員が講義を行う。 ・学習に関連する参考コピーを提供する。					
【事前・事後学習】					
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義内容】				
1	病原微生物学学習の意義・高校理科（生物）・保健体育の見直し				
2	感染症とは				
3	免疫（1）				
4	免疫（2）				
5	細菌				
6	ウイルス				
7	真菌				
8	原虫				
9	寄生虫				
10	感染症の診断・治療・予防・制御				
11	病原微生物学各論（1）				
12	病原微生物学各論（2）				
13	病原微生物学各論（3）				
14	感染症の疫学				
15	終講（講義の振り返り）・科目終了試験				
【評価方法】					
・科目終了試験を実施・筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】					
・はじめて学ぶ人のための目で見える教科書：はじめの一步のイラスト「感染症・微生物学」（本田武司／編）【羊土社】					
【サブテキスト】					
・新改訂版 パワーアップ問題演習 微生物学（著／西條政幸）【サイオ出版】					

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 牧野 令子			
【 科 目 名 】	臨床栄養学				
【開講時期】	1 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・人間にとっての栄養の意義と食生活のあり方を理解する ・食事療法の基礎的知識を理解する					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	QOL と食生活	1. 健康と食 2. 人間生活を豊かにする食			
2	ライフサイクルと栄養	ライフサイクルと食の特徴			
3	食べる行動から始まる栄養	1. 食べる行動 2. 何を食べたらよいか			
4		3. どれだけ食べたらよいか			
5	とり込まれた食物のゆくえ	消化からはじまる栄養			
6	健康と栄養	疾病時の栄養療法			
7	発達機能各期の疾病の特徴と栄養	小児期、思春期の疾病の特徴と食			
8		成人期の疾病の特徴と栄養 1) 消化器疾患と食			
9		2) 循環器系疾患と食			
10		3) 糖尿病と食 4) 肥満と食			
11		5) 腎疾患と食、老年期の疾病の特徴と栄養			
12	発達機能各期の疾病の特徴と栄養 人間と食文化 セルフケアと食	妊産婦の疾病と特徴と食 食べるとは 食習慣をつくる健康教育			
13	食生活の自立への援助 現代人の食生活の課題	ヘルスプロモーションと食			
14	「食生活と看護の関わり」グループワーク				
15	科目終了試験および試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】 ・看護栄養学 第3版 (医歯薬出版株式会社)					

【区 分】	専門基礎分野	【担当教員】 桑島 治博			
【科目名】	薬理学				
【開講時期】	2年次 前期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】 ・臨床において適切な薬物療法を実践するために、薬物の薬理作用、副作用、生体と薬物の相互作用を学習し、臨床で使用される薬剤の正しい知識と適切な使用法を修得する。					
【授業者】 ・本科目は実務経験を有する教員が講義を行う					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】		【講義内容】		
1	薬理学とはなにか		薬物療法の目的、看護師の役割、薬理作用の基本形式		
2	薬物動態		薬物の作用機序、投与経路、体内動態		
3	薬物相互作用、薬物使用の影響		薬物の副作用、薬物の連用、併用、相互作用		
4	医薬品に関する法律		医薬品の管理 法令、処方箋、添付文書		
5	感染症治療に関する事項		抗感染症薬		
6	がん治療・免疫治療に関する事項		抗がん薬 免疫治療薬		
7	抗アレルギー薬・炎症と抗炎症薬		抗アレルギー薬、抗炎症薬		
8	末梢での神経活動に作用する薬物		末梢神経作用薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬		
9	中枢神経系に作用する薬物		全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神薬、パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、麻酔鎮痛薬		
10					
11	心臓・血管系に作用する薬物		抗高血圧薬、狭心症薬、心不全治療、抗不整脈薬		
12	血液に関する薬物		貧血治療薬、抗凝固薬、血栓治療薬、抗血小板薬、止血薬		
13	呼吸器・消化器に作用する薬物		気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、消化薬		
14	物質代謝に作用する薬物、漢方		インスリン、骨粗鬆症、漢方薬、治療薬		
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験（多肢選択式）・出欠状況・レポート提出によって評価する					
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③【医学書院】					

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 的場 已知子			
【 科 目 名 】	治療論				
【開講時期】	2 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・ 疾病の回復を促進する各治療及び検査の原理を理解する					
【授業者】 ・ 本科目は医師の資格を有する教員が講義を行う					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	薬物療法とは	主な剤形の特徴、投与経路と作用時間、薬理作用			
2	食事療法とは	栄養状態の評価、検査、 特殊栄養法（経腸栄養と経静脈栄養）			
3	運動療法・リハビリテーション療法	運動療法の目的、種類と特徴			
4	放射線療法とは	放射線療法の目的、方法			
5	放射線障害と防護	放射線療法の適応、放射線急性、慢性被害			
6	内視鏡的治療	内視鏡的治療の目的、治療、外科手術			
7	手術療法	手術療法の目的、外科手術の手技・処置の基本			
8	麻酔の基本と手術室管理	麻酔の種類、麻酔の合併症、手術管理			
9	手術前・術後の管理	術前管理、創傷治癒の管理、術後合併症の管理			
10	外科的侵襲と生体反応	サイトカイン、炎症と感染症			
11	生体の損傷	損傷の定義、分類			
12	救急医療と実際	心肺蘇生			
13	腫瘍の外科治療	治療の原則、手術治療の進歩			
14	臓器移植	臓器移植の適合性、免疫抑制療法、生体移植			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】 ・ 新体系看護学 4 治療法概説 疾病の成り立ちと回復の促進②【メヂカルフレンド社】					

【区 分】専門基礎分野	【担当教員】 栗生田 博子	
【科目名】リハビリテーション概論		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・リハビリテーションの概念とその実際を理解する。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	リハビリテーションとは（1）	リハビリテーションの歴史、定義、理念
2	リハビリテーションとは（2）	疾病・障害、生活機能の分類、多職種連携
3	運動器系の障害とリハビリテーション（1）	運動器疾患に関連するリハビリテーション
4	運動器系の障害とリハビリテーション（2）	運動器疾患に関連するリハビリテーション
5	中枢神経系の障害とリハビリテーション（1）	中枢神経疾患に関連するリハビリテーション
6	中枢神経系の障害とリハビリテーション（2）	中枢神経疾患に関連するリハビリテーション
7	まとめ	講義総括
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・科目終了試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 別巻③リハビリテーション看護【医学書院】		

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 植木 信一			
【 科 目 名 】	社会福祉学				
【開講時期】	2 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】					
・ 看護に必要な社会福祉の知識を習得する					
・ 社会福祉の実際を知り、身近な生活課題であることを理解する					
【授業者】					
・ 本科目は社会福祉の施設において、指導員の実務経験を有する教員が講義を行う					
【事前・事後学習】					
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	社会福祉の基礎概念	社会福祉（学）のみかた 人権・権利			
2	社会福祉の援助の方法論	ソーシャルワークの体系 社会福祉のしくみ			
3	社会福祉に関係する資格制度	社会福祉機関と資格、社会福祉の機関と施設			
4	ライフサイクルと社会福祉	子ども家庭と福祉			
5		障がい者福祉			
6		高齢者福祉 介護保険制度 介護ケアシステム			
7	社会保障制度の概要	年金制度・医療保険制度			
8		生活保護			
9		雇用保険・労災保険制度			
10	地域福祉	地域福祉の概念			
11		ソーシャルサポートネットワーク、成年後見制度			
12	社会福祉の歴史的発達	これからの社会福祉			
13	まとめ	国家試験過去問題の解説①			
14		国家試験過去問題の解説②			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】					
・ 科目終了試験を実施					
・ 筆記試験によって評価する					
【テキスト・教科書】					
よくわかる社会福祉【ミネルヴァ書房】					

【 区 分 】	専門基礎分野	【担当教員】 山中 麻衣			
【 科 目 名 】	公衆衛生学				
【開講時期】	1 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】 ・社会における公衆衛生の意義、および、活動方法の特性を理解する。 ・集団の健康状態を知る方法を理解する。 ・地域で行われている保健活動を理解する。 ・公衆衛生の基本となる疫学を理解する。 ・環境が及ぼす健康問題を理解する。					
【授業者】 ・本科目は実務経験を有する教員が講義、演習を行う					
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】	【講義内容】			
1	公衆衛生の概念・意義	健康の概念 公衆衛生とは何か、公衆衛生の変遷 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション			
2	地域保健（１）	母子保健、成人保健			
3	地域保健（２）	高齢者保健			
4	地域保健（３）	精神保健、難病・障がい支援、			
5	地域保健（４）	感染症対策			
6	学校保健	学校保健			
7	産業保健	産業保健、職業病、健康危機管理			
8	公衆衛生の活動対象 （１）	健康に関する社会集団、看護職の公的責任			
9	公衆衛生の活動対象 （２）	社会集団をとらえる視座 環境要因			
10	公衆衛生のしくみ	法律と政策・施策、国と地方自治体の役割と看護職のはたらき			
11	環境と健康	環境とは、地球規模の環境と健康、身の回りの環境と健康			
12	国際保健	経済格差、健康格差			
13	公衆衛生の場での疫学 （１）	疫学とは、集団として人々の健康をまもる			
14	公衆衛生の場での疫学 （２）	有病率と罹患率、平均寿命、平均余命、健康指標			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・科目終了試験を実施。 ・筆記試験によって評価する。					
【テキスト・教科書】 ・公衆衛生がみえる 【メディックメディア】					

【区 分】	専門基礎分野	【担当教員】 宮川 貴浩	
【科目名】	関係法規		
【開講時期】	3年次 後期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・基礎知識ならびに保健医療関係法規を学ぶ ・看護職としての身分・業務・責任を理解し専門職としての自覚を持つことができる			
【授業者】 ・本科目は弁護士の資格を有する教員が講義を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	
1	法律の概念	関係法規とは何か	
2	看護法	保健師助産師看護師	
3	医事法	医療法、医療観資格法、	
4	医事法	保健医療福祉資格法	
5	医事法	医療を支える法	
6	保健衛生法	共通保健法、分別保健法	
7	保健衛生法	共通保健法、分別保健法	
8	保健衛生法	共通保健法、分別保健法	
9	薬務法、環境衛生法	薬事一般に関する法律、営業、環境整備	
10	社会保険法	費用保障、年金、手当	
11	社会保険法	費用保障、年金、手当	
12	福祉法	福祉の基盤、児童、高齢分野、障害分野	
13	労働法と社会基盤整備	労働法、社会基盤整備など	
14	環境法	環境保全の基本法、公害防止の法、自然保護法	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座「看護関係法令」健康支援と社会保障制度④【医学書院】 ・適宜プリント配布			

【 区 分 】	専門基礎分野		【担当教員】	鈴木 光江	相馬 奈美
【 科 目 名 】	医療概論				
【開講時期】	1 年次 前期	【単位数】	1 単位	【コマ数】	1 5 コマ
【科目目標】					
・医療者として“いのち（生命）”とどう向き合うのか考えることができる					
・医療全般の基盤となる考え方や知識を習得する					
・医療の多様性と広がりを知り現代医療における意義・あり方・問題を理解する					
【授業者】					
・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う					
【事前・事後学習】					
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【講義項目】		【講義内容】		
1	生命を尊ぶ心		命をいつくしむ 生命の価値 QOL		
2	死を悼む心		よい命の終わり 準備教育 グリーフケア		
3	健やかに生きること		健康とは 老いてこそ人生		
4	おだやかに死ぬこと		終末期を考える 緩和ケア 意思決定		
5	医学と医療		医学の歴史 科学としての医学 エビデンスに基づく医療		
6	現代の医療		保健・医療・介護の社会環境 社会保障制度		
7	切れ目のないサポートの実現		公衆衛生と保健		
8			病院と診療所 医療従事者 地域医療連携		
9			救急医療・集中治療 チーム医療		
10			介護保険サービス 地域包括ケア		
11	現代医療にかかわる諸問題		医の倫理 医療安全		
12			医薬品 最先端医療 医療情報		
13	医療と経済学		公的医療保険の必要性 医療職の不足		
14	転換を迫られる医療政策		国民医療費 急性期医療の集約化 医療者がもつべきコスト意識		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】					
・科目終了試験を実施					
・筆記試験によって評価する。					
【テキスト・教科書】					
・学生のための医学概論 健康支援と社会保障制度①【医学書院】					

【区 分】 専門基礎分野	【担当教員】 吉田 眞夢	
【科目名】 東洋医療		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・東洋の医学における概念を理解する。 ・漢方医学の中でも、鍼灸を用いた医学の概要を理解する。 ・マッサージ・指圧・按摩など実際をとおして効果を理解する。 【授業形態】 ・講義		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	西洋医学と東洋医学の概念	白野
2	東洋思想と日常生活	白野
3	東洋医学の基礎知識	白野
4	東洋医学からみる人体の構成要素（気・血・津液）	鈴木
5	陰陽・五行学説	鈴木
6	温灸体験（カマヤ）	横木
7	四診について	吉田（顕）
8	臓腑弁証論について	横木
9	食養	鈴木
10	あん摩、マッサージ、指圧、その他の手技療法（講義）	大野
11	マッサージ・指圧の強さ（演習）	大野
12	上半身のマッサージ（演習）	大野
13	下半身のマッサージ（演習）	大野
14	美容鍼（鍼体験）	鈴木
15	症状緩和としてのツボ押し	白野
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・レポートによって評価する 【テキスト・教科書】 ・看護師のための東洋医学入門【医歯薬出版株式会社】 ・配布資料		

【区 分】 専門基礎分野	【担当教員】 長岡 成夫	
【科目名】 生命倫理		
【開講時期】 3年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容を理解し、看護師としての倫理的な自覚を深める。 【授業者】 本科目は実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	倫理・生命倫理とは何か	倫理理論の見取り図、生命倫理の特徴
2	患者主体の医療 1	インフォームドコンセントの歴史
3	患者主体の医療 2	治療方針決定の現場
4	生の始まりに関わる倫理 1	生殖補助医療技術
5	生の始まりに関わる倫理 2	出生前診断
6	生の終わりに関わる倫理 1	安楽死・尊厳死 日本の状況
7	生の終わりに関わる倫理 2	安楽死・尊厳死 海外の状況
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・小レポートおよび終了試験により評価する		
【テキスト・教科書】 事例でまなぶケアの倫理（メディカ出版）		

専門分野 I

No.	科目名	学年	開講時期	備考
36	基礎看護学概論Ⅰ	1年生	前期	
37	基礎看護学概論Ⅱ	2年生	後期	
38	基礎看護技術Ⅰ	1年生	前期	
39	基礎看護技術Ⅱ	1年生	前期	
40	基礎看護技術Ⅲ	1年生	前期	
41	基礎看護技術Ⅳ	1年生	前期	
42	基礎看護技術Ⅴ	1年生	後期	
43	基礎看護技術Ⅵ	1年生	後期	
44	基礎看護技術Ⅶ	1年生	後期	
45	基礎看護技術Ⅷ	1年生	後期	

【区 分】	専門分野Ⅰ		【担当教員】	鈴木 光江		
【科目名】	基礎看護学概論Ⅰ					
【開講時期】	1年次 前期		【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】 ・看護の基本となる概念を体系的に理解する。 ・保健・医療・福祉の広い視野で看護の機能・役割を理解する。 ・人間理解を基盤とした上で専門職業人としての倫理的態度を養う。 ・各領域の看護学への学習意欲を発展させるための科目であることを理解する。 ・自己の看護師像を形成することができる						
【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う						
【事前・事後学習】 ・毎回授業内容を確認し、テキストの該当する項目を読んで準備してから授業に臨む（25分） 特に提示のサブテキストは熟読して授業に望む ・授業後は配布資料やテキスト等を用いて授業内容の復習をする（20分）						
【回数】	【項目】		【内容】			
1	看護の本質		看護師の職業 看護の変遷 役割と機能 看護の主要概念			
2			看護職能団体による定義			
3			ナイチンゲールの看護の定義 【看護覚え書】			
4			ヘンダーソンによる看護の定義【看護の基本となるもの】			
5	看護の対象である人間理解		人間のこころとからだ 欲求をもつ存在			
6			発達し続ける存在 生活を営む存在			
7	健康のとらえ方		WHOの定義 ウェルネスの概念 健康とQOL			
8	看護実践と質保証に必要な要件		安全性と安楽性 自立の促進 プライバシーの保護 説明と同意 看護過程とクリティカルシンキング EBN			
9	看護の継続性と多職種連携		看護師間の情報共有 多職種チーム連携（チーム医療）			
10	看護職の資格に係る法律と制度		保健師助産師看護師法 看護職等の養成制度			
11	看護における倫理		倫理とは 職業倫理と看護倫理 倫理原則			
12			看護者に求められる倫理【よくわかる看護者の倫理綱領】			
13			看護の場で生じやすい倫理上の問題【よくわかる看護者の倫理綱領】			
14	主な看護活動の場と看護の機能		医療法に定義されている医療施設 多様な場における看護活動			
15	科目終了試験		試験の解説と講義の振り返り まとめ			
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・提示した課題の提出状況や内容も評価の対象とする						
【テキスト・教科書】 ・系看 専門 看護学概論 基礎看護学Ⅰ【医学書院】						
【サブテキスト】 ・看護覚え書【現代社】 ・看護の基本となるもの【日本看護協会出版会】 ・よくわかる看護者の倫理綱領【照林社】						

【区 分】 専門分野Ⅰ	【担当教員】 樋口 明美	
【科目名】 基礎看護学概論Ⅱ		
【開講時期】 2年次 後期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・看護研究の意義とそのプロセスを理解する ・看護研究の研究デザインの設計と研究計画書作成の方法を理解する。 ・看護研究を実践するための研究力を活かす方法を知る。 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う。 【授業形態】 ・講義・演習		
【回数】	【項目】	【内容】
1	看護研究とは	看護研究の意義と目的、種類と特徴
2		研究方法の特徴
3	研究のプロセス	研究のプロセス（文献の活用・文献の読み方、研究テーマの設定）
4		研究における倫理的配慮
5		研究の設計、研究デザイン
6		データ収集方法
7		データの分析（量的・質的）
8		科目修了試験
【評価方法】 ・ケーススタディ抄録の提出（チェック表に基づく）		
【テキスト・教科書】 ・「ひとりで学べる看護研究」照林社		

【区 分】	専門分野Ⅰ	【担当教員】 大野 享・外部講師			
【科目名】	基礎看護技術Ⅰ				
【開講時期】	1年次 前期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】 ・看護技術の概念を理解する ・安全を守る技術について理解する ・対象の日常生活を支援するための教育的関わりを理解する 【授業形態】 講義、演習【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【項目】	【内容】			
1	看護技術の概念	技術とは何か/看護技術の位置づけ、種類と分類			大野享
2		看護技術に求められる質の保障の考え方			〃
3	安全管理	看護における安全の意義・目的			〃
4		医療事故と事故防止の基礎知識、対象理解の重要性			〃
5	感染予防	感染予防の意義と原則			外部講師
6		感染予防対策の基本 スタンダードプリコーション			外部講師
7		感染予防における看護師の責務と役割			大野享
8		感染源対策（清潔物品の取り扱い）			〃
9		感染経路対策（手洗い、感染防護用具）			〃
10		感染経路対策（無菌操作）			〃
11		【学内演習】手洗い・ガウンテクニック・滅菌物の取り扱い			〃
12	教育的機能	看護教育的機能の目的と役割について			〃
13		指導の進め方①（指導目的、指導対象と指導場面）：事例提示			〃
14		指導の進め方②（指導方法、指導計画立案）指導の実際：ロールプレイ（教育指導、指導の実施評価）			〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ			
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する					
【テキスト・教科書】 ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ【医学書院】 ・看護技術プラクティス【学研】					
【備考】					

【区 分】 専門分野Ⅰ		【担当教員】 高橋 美英子	
【科目名】 基礎看護技術Ⅱ			
【開講時期】 1年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・対人関係を成立・発展させるためのコミュニケーション技術の基本を理解する。 ・フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントの方法を理解する。 ・正確なバイタルサインの測定の技術を習得する。 ・正確なフィジカルイグザミネーションの技術を習得し、正常・異常の判断する。 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前学習】 ・毎時間テキストを読み予習してから授業に臨む。 【事後学習】 ・バイタルサインの測定とフィジカルイグザミネーションの正確な技術が修得できるように繰り返し練習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	看護におけるコミュニケーション	意図的コミュニケーション	
2		「聴く」技術	
3		「話す」技術・面接における「問診」の技術	
4	健康状態のアセスメント	情報収集・観察の目的と方法「視診・触診・聴診・打診」 フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントとは	
5	記録と報告	看護記録と報告の方法	
6	バイタルサイン	バイタルサインの意義と測定の方法① 「体温測定」	
7		バイタルサインの意義と測定の方法② 「脈拍測定」・「呼吸測定」	
8		バイタルサインの意義と測定方法③ 「血圧測定①」	
9		バイタルサインの意義と測定方法④ 「血圧測定②」	
10	【学内演習】	【バイタルサインの測定の実際】	
11	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント① 「呼吸音の聴取」・「意識レベル」・「対光反射の測定」	
12		フィジカルアセスメント②・③ 「腸蠕動の聴取」・「身体計測の方法」	
13		フィジカルアセスメント④・⑤ 「心音の聴取」	
14	【学内演習】	【フィジカルイグザミネーションの実際】	
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験【筆記試験】を実施する ・バイタルサイン測定 of 技術確認テストを実施する ・技術演習インパクトシート of 内容と授業態度も評価 of 対象とする			
【テキスト】 ・基礎看護技術Ⅰ【医学書院】 ・基礎看護技術Ⅱ【医学書院】 ・看護技術プラクティス【学研】 ・看護がみえる vol.③フィジカルアセスメント【メディックメディア】 【サブテキスト】 ・看護技術がみえる vol.① 基礎看護技術 【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野Ⅰ		【担当教員】 齋藤 真美・樋口 明美	
【科目名】 基礎看護技術Ⅲ			
【開講時期】 1年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・快適な環境と援助方法について理解し、病床整備の技術を習得する ・活動・休息の意義を理解し、対象に適した援助を理解する			
【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【授業形態】 ・講義・演習			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	環境	1. 生活環境の意義、病院・病棟、病床環境の基本	齋藤
2		2. 快適な生活環境と援助（ベッドの高さ、音、光、臭い）	〃
3		病床環境整備（講義/演習）	〃
4		3. 病室環境の整え方 1）リネンのたたみ方（講義/演習）	〃
5		【演習】 2）クローズドベッドの作り方	〃
6		【演習】 〃	〃
7		【演習】 4）就床患者のシーツ交換	〃
8		【演習】 〃	〃
9	姿勢と体位	ボディメカニクス、体位、体位変換	樋口
10	活動・休息の援助	1. 歩行、移乗、移送の援助	〃
11		【演習】援助の実際：車椅子乗車・ストレッチャー、歩行介助	〃
12		2. 睡眠、休息の援助	〃
13		3. 安楽のための援助（ポジショニング）	〃
14		【演習】安楽な体位の工夫	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ【医学書院】 ・看護技術プラクティス【学研】			

【区 分】 専門分野Ⅰ	【担当教員】 齊藤 静子	
【科目名】 基礎看護技術Ⅳ		
【開講時期】 1年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・衣生活の意義を理解できる。 ・清潔の意義を理解できる。 ・清潔保持に必要な援助方法を理解する。 ・対象に合わせた清潔保持に必要な援助を実施できる。 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・毎時間テキストを読み予習してから授業に臨む。演習前は事前学習課題を作成して臨む。 ・講義終了後は、テキスト・資料等で復習を行い、基本的事項の理解に努める。 ・演習後は、技術習得に不十分な部分を含め、自己研鑽に努める。		
【回数】	【項目】	【内容】
1	衣生活の意義	衣生活の意義、寝衣交換の援助方法
2	清潔の意義	清潔の意義、身体清潔の基礎知識
3	衣生活の援助の実際	【演習】寝衣交換
4	清潔援助の方法の実際①	清潔援助の方法の選択
5	清潔援助の方法の実際②	洗髪の方法
6	温湯効果の実際	【演習】湯の温度とタオルの温度変化
7	清潔援助の方法の実際③	【演習】洗髪
8	清潔援助の方法の実際④	【演習】洗髪
9	清潔援助の方法の実際⑤	全身清拭の方法
10	清潔援助の方法の実際⑥	【演習】全身清拭
11	清潔援助の方法の実際⑦	【演習】全身清拭
12	清潔援助の方法の実際⑧	手浴、口腔ケア、足浴、陰部洗浄の方法
13	清潔援助の方法の実際⑨	【演習】手浴・口腔ケア
14	清潔援助の方法の実際⑩	【演習】足浴・陰部洗浄
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ
【評価方法】 ・15回目に筆記試験によって科目終了試験を実施する。 ・技術手順書の作成、技術振り返りシートも評価の対象とする。		
【テキスト・教科書】 ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ【医学書院】 ・看護技術プラクティス【学研】 【サブテキスト】 ・看護技術がみえる vol.① 基礎看護技術 【メディック メディア】		

【区 分】 専門分野Ⅰ	【担当教員】 相馬 奈美	
【科目名】 基礎看護技術Ⅴ		
【開講時期】 1年次 後期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・看護の展開技術としての看護過程を理解する。 ・模擬事例を用いて、実際に看護過程を展開できる。 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【授業形態】 ・講義・演習 【事前・事後学習】 演習では事例を用いて看護過程を展開していくので、講義の前後には必ず自己学習を行う。		
【回数】	【項目】	【内容】
1	看護過程とは	問題解決思考、クリティカルシンキング、看護過程の構成要素
2	ヘンダーソンの看護論	ヘンダーソンの看護論における4つの概念と看護の定義 ヘンダーソンの看護論における視点（常在条件、病理的状态、基本的欲求）
3	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開
4	アセスメントの進め方の実際①	【練習①】情報の記録の仕方、主観的情報と客観的情報の区分け 情報の整理（枠組みを用いて整理する）
5	アセスメントの進め方の実際②	【練習②】初期アセスメントから焦点アセスメントへ
6	看護過程の展開の実際①	【演習①】情報収集の準備
7	看護過程の展開の実際②	【演習②】情報収集と情報の整理 情報の妥当性の判断と追加情報の抽出
8	看護過程の展開の実際③	【演習③】情報収集と情報の整理 情報の妥当性の判断と追加情報の抽出
9	看護過程の展開の実際④	【演習④】充足未充足の判断 未充足の原因・誘因の分析と記録
10	看護過程の展開の実際⑤	【演習⑤】看護問題の一覧と全体像、 優先順位の判断と看護問題の統合
11	看護過程の展開の実際⑥	【演習⑥】看護問題の抽出と目標設定
12	看護過程の展開の実際⑦	【演習⑦】看護計画の立案①
13	看護過程の展開の実際⑧	【演習⑧】看護計画の立案②
14	看護過程の展開の実際⑨	看護実践の記録と看護計画の評価
15	看護記録の目的・機能と管理	看護記録の意義・必要性、看護記録の構成と種類 看護記録・管理における留意点
	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第3版 【ヌーベルヒロカワ】 ・看護の基本となるもの【日本看護協会出版会】		

【区 分】 専門分野Ⅰ		【担当教員】 高橋 美英子・佐藤 真樹・外部講師	
【科目名】 基礎看護技術Ⅵ			
【開講時期】 1年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・ 主要な症状のメカニズムを理解する ・ 主要な症状に対する対象のニーズと日常生活に及ぼす影響を理解する ・ 治療、検査時にある対象のニーズと看護の基本を理解する ・ 医療機器の原理を知り、基本的な操作について理解する 【授業者】 ・ 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習しておくこと ・ 講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	主要な症状を示す対象者への看護	体温調節のメカニズムと日常生活に及ぼす影響	高橋
2		痛みのメカニズムと日常生活に及ぼす影響	〃
3		循環障害のメカニズムと日常生活に及ぼす影響	〃
4		【演習】安楽を提供するためのケア（温電法、冷電法）	〃
5		呼吸困難のメカニズムと日常生活に及ぼす影響	〃
6		【演習】酸素吸入、吸引	〃
7		【演習】酸素吸入、吸引	〃
8		褥瘡発生のメカニズムと援助の実際（褥瘡の基礎知識）	外部講師
9	治療・処置を受ける対象者への看護	輸血療法を受ける対象者への看護	佐藤
10		【演習】創傷ケアを受ける対象者への看護 包帯法	〃
11	主な検査と検査に伴う看護	検体検査と生体検査、検体の取扱い方（血液、尿、便、喀痰） 検査時の対象の心理と援助方法	〃
12		穿刺（胸腔・腹腔・腰椎・骨髄）	〃
13		採血（静脈血・動脈血）	〃
14	医療機器の原理と実際	医療機器の目的と種類、取り扱い上の基本的事項	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	高橋
【評価方法】 ・ 筆記試験によって評価する ・ 技術演習インパクトシートの内容と授業態度も評価対象とする			
【テキスト・教科書】 ・ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 【医学書院】 ・ 看護技術プラクティス 【学研】 ・ 看護技術がみえる vol.③ フィジカルアセスメント 【メディック メディア】 ・ 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学（4） 臨床看護総論 【医学書院】 【サブテキスト】 ・ 看護技術がみえる vol.① 基礎看護技術 【メディック メディア】 ・ 看護技術がみえる vol.② 臨床看護技術 【メディック メディア】			
備考			

【区 分】 専門分野Ⅰ		【担当教員】 大野 享・大野 直子	
【科目名】 基礎看護技術Ⅶ			
【開講時期】 1年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・薬物療法における看護師の役割について理解する ・与薬法を安全かつ正確に実施する知識を習得する ・注射法を安全かつ正確に実施する技術を習得する ・救急看護の対象とその家族の特徴を理解する ・救急看護における看護師の役割を理解する ・一次救命処置を習得する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習しておくこと ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	薬物療法	薬物療法とは 薬物療法における看護師の役割、与薬時の事故防止	大野享
2		経口与薬法・口腔与薬法・直腸内与薬法・外用薬与薬法・吸入法の実 際と留意点	〃
3		注射法とは 皮下注射法・筋肉内注射法・皮内注射法の実際と留意点	〃
4		【演習】皮下注射の準備	〃
5		【演習】皮下注射法	〃
6		【演習】筋肉内注射の準備	〃
7		【演習】筋肉注射法	〃
8		静脈内注射法・点滴静脈内注射の実際と留意点 中心静脈栄養法の注意点	〃
9		【演習】点滴静脈内注射の準備	〃
10		【演習】点滴静脈内注射の刺入と管理	〃
11	救急看護	救急看護の対象とその家族の特徴 救急看護における看護師の役割 救命の連鎖	大野直
12		心肺蘇生法の目的・一次救命処置	〃
13		止血法、気道閉塞への対応	〃
14		【演習】一次救命処置	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	大野享
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・基礎看護技術Ⅰ 【医学書院】 ・基礎看護技術Ⅱ 【医学書院】 ・看護技術プラクティス 【学研】 【サブテキスト】 ・看護技術がみえる vol.① 基礎看護技術 【メディック メディア】 ・看護技術がみえる vol.② 臨床看護技術 【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野Ⅰ	【担当教員】 関根 愛実	
【科目名】 基礎看護技術Ⅷ		
【開講時期】 1年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・食事の意義と援助の必要性および援助方法を理解し、技術を習得する ・排泄の意義と援助の必要性および援助方法を理解し、技術を習得する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備した上で授業に臨む 【事後学習】 ・授業後テキストや配布資料をもとに復習を行い、理解を深める		
【回数】	【項目】	【内容】
1	食事・栄養の援助	食事と栄養の意義 健康な食生活と食事摂取基準
2		食事・栄養のアセスメント 食生活の基本的援助（経口栄養、非経口栄養）
3		【演習】食事援助の実際
4	排泄の援助	排泄の意義と排泄のメカニズム 排泄のアセスメント 排泄の基本的援助
5		排便障害と援助、排尿障害と援助
6		【演習】排泄援助の実際：浣腸（便器のあて方を含む）
7		【演習】排泄援助の実際：導尿（尿器のあて方を含む）
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ【医学書院】 ・看護技術プラクティス【学研】		

専門分野Ⅱ

No.	科目名		学年	開講時期	備考
46	成人看護学	成人看護学概論	1年生	前期	
47		成人看護援助論Ⅰ	1年生	後期	
48		成人看護援助論Ⅱ	2年生	前期	
49		成人看護援助論Ⅲ	2年生	前期	
50		成人看護援助論Ⅳ	2年生	後期	
51		成人看護援助論Ⅴ	2年生	後期	
52	老年看護学	老年看護学概論	1年生	後期	
53		老年看護援助論Ⅰ	2年生	前期	
54		老年看護援助論Ⅱ	2年生	後期	
55		老年看護援助論Ⅲ	2年生	後期	
56	母性看護学	母性看護学概論	1年生	後期	
57		母性看護援助論Ⅰ	2年生	前期	
58		母性看護援助論Ⅱ	2年生	前期	
59		母性看護援助論Ⅲ	2年生	後期	
60	小児看護学	小児看護学概論	1年生	後期	
61		小児看護援助論Ⅰ	1年生	後期	
62		小児看護援助論Ⅱ	2年生	前期	
63		小児看護援助論Ⅲ	2年生	前期	
64	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	1年生	後期	
65		精神看護学概論Ⅱ	2年生	前期	
66		精神看護援助論Ⅰ	2年生	後期	
67		精神看護援助論Ⅱ	2年生	後期	

【区 分】 専門分野Ⅱ	【担当教員】 齊藤 静子	
【科目名】 成人看護学概論		
【開講時期】 1年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・人間のライフサイクルに照らし合わせて、成人期にある人の身体的、心理的、社会的な特徴を理解する ・成人期にある人の健康と健康障害について理解する ・成人の健康レベルに応じた看護を理解する ・成人看護に活用できる理論について理解する		
【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う		
【事前・事後学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する。 ・講義終了後は、テキストや資料をもとに講義内容の復習をおこない理解に努める。		
【回数】	【項目】	【内容】
1	成人看護の対象である成人とは	成人の定義 成人期にある人の理解、ライフサイクル
2		成長・発達過程からみ成人の特徴（青年期・壮年期・向老期）
3	成人を取り巻く社会環境と成人の生活	働くことと生活 家族との関係①
4		働くことと生活 家族との関係②
5	成人の健康と動向と保健・医療・福祉政策	保健統計からみた成人の健康の動向①
6		保健統計からみた成人の健康の動向②
7		成人期に特徴的な健康問題
8	健康レベルからみた成人看護の特徴	健康の危機状況をきたした人の看護（急性期）
9		急性期にある成人患者への看護（急性期）
10		手術療法を必要とする成人への支援（周術期）
11		成人患者の回復期への移行（回復期）～健康生活の継続支援（慢性期）
12		健康行動への行動変容、成人に対する健康学習支援（慢性期）
13		リハビリテーションを必要とする成人への看護
14		人生の最期を迎える人の看護（終末期）
15	科目修了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・欠席や遅刻、授業への参加態度も評価の対象とする		
【テキスト・教科書】 ・成人看護学概論/成人保健 成人看護学①【メジカルフレンド社】		
【サブテキスト】 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学（4） 臨床看護総論 【医学書院】		

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 関根 愛実・高橋 直美	
【科目名】 成人看護援助論Ⅰ			
【開講時期】 1年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・慢性疾患がある患者とその家族の特徴を理解する ・慢性疾患がある患者とその家族への看護を理解する ・慢性疾患患者とその家族に必要な看護技術が習得できる 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前学習】 ・解剖生理学、疾病学（病態生理）については復習をした上で授業に参加する ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する 【事後学習】 ・授業後テキストや配布資料をもとに復習を行い、理解を深める			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	内部環境調節機能障害のある患者の看護	糖質、脂質、蛋白質代謝、尿酸代謝障害のアセスメント	関根
2		糖尿病をコントロールする生活援助①	〃
3		糖尿病をコントロールする生活援助②	〃
4		糖尿病患者の指導の実際（演習含む）	〃
5	内分泌機能障害のある患者の看護	内分泌機能障害のアセスメント 下垂体機能障害のある患者の看護	〃
6	栄養・代謝機能障害のある患者の看護	栄養・代謝機能障害のアセスメント	〃
7		肝機能障害のアセスメント	〃
8		肝硬変患者の看護	〃
9	消化・吸収機能障害のある患者の看護	消化・吸収機能障害のアセスメント	〃
10		消化器疾患患者の看護	〃
11	呼吸機能障害のある患者の看護	呼吸機能障害のアセスメント	高橋 直美
12		慢性閉塞性肺疾患患者への看護①	〃
13		慢性閉塞性肺疾患患者への看護②	〃
14		肺炎患者の看護	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	〃
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・授業への参加態度も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（2） 呼吸器 【医学書院】 ・看護がみえる Vol.③フィジカルアセスメント 【メディックメディア】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（5） 消化器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（6） 内分泌・代謝 【医学書院】 【サブテキスト】 ・基礎看護技術Ⅰ 【医学書院】 ・基礎看護技術Ⅱ 【医学書院】 ・看護技術プラクティス 【学研】 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学（4） 臨床看護総論 【医学書院】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 大野 直子	
【科 目 名】 成人看護援助論Ⅱ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・回復過程にある成人の特徴を理解する ・回復過程にある成人とその家族への看護を理解する ・疾病の病期に応じた看護過程が展開できる 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【授業形態】 ・講義・演習			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	運動機能障害のある患者の看護	運動機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法①	大野
2		運動機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法②	〃
3		骨折患者の看護	外部講師
4		関節リウマチ患者の看護	外部講師
5	脊髄神経機能障害のある患者の看護	脊髄神経機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法	大野
6		脊髄損傷患者の看護（危機理論の活用）	〃
7	腎機能障害のある患者の看護	腎機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法	〃
8		腎不全患者の病期に応じた援助	〃
9		透析療法を受ける患者の看護	〃
10	事例検討【グループ演習】	腎不全患者の看護 成人看護の特徴	〃
11		腎不全患者の看護 アセスメント	〃
12		腎不全患者の看護 問題抽出～看護計画	〃
13		腎不全患者の看護 看護計画立案	〃
14		腎不全患者の看護 計画の実施 まとめ	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・健康障害（病態生理）については、自己学習して参加することを期待します			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（8） 腎・泌尿器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（10） 運動器 【医学書院】 【サブテキスト】 ・看護技術プラクティス【学研】 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学（4） 臨床看護総論 【医学書院】 ・系統看護学講座 別巻③ リハビリテーション看護 【医学書院】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 大野 享・高橋 直美・佐藤 真樹・外部講師	
【科目名】 成人看護援助論Ⅲ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・急性期にある患者と家族の特徴を理解する ・急性期にある患者と家族への看護を理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前に健康障害（病態生理）については自己学習しておくこと ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	急性期にある患者と家族の特徴と看護	急性期にある患者の緊急性と重症度のアセスメント	大野享
2		危機的状態への精神的援助	〃
3	クリティカルケア	外傷・熱傷・中毒患者の看護①	〃
4		外傷・熱傷・中毒患者の看護②	〃
5		人工呼吸器装着中の看護	〃
6	循環機能障害のある患者の看護	循環機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法 （主な症状と特徴と看護、循環機能障害と日常生活）	高橋 直美
7		虚血性心疾患患者の看護 （狭心症・心筋梗塞のある患者の看護/心臓リハビリ/自己管理指導）	〃
8		心不全のある患者の看護（急性～慢性への移行）	〃
9		不整脈のある患者の看護（薬物療法・ペースメーカー）	〃
10		【演習】12 誘導心電図装着	〃
11	脳・神経機能障害のある患者の看護	脳・神経機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法① （生命維持活動調節機能の原因と程度）	佐藤
12		脳・神経機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法② （言語・感覚機能障害の原因と程度）	〃
13		クモ膜下出血患者の看護（急性～回復への移行）	外部講師
14		脳梗塞患者の看護（急性～回復への移行）	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（2）呼吸器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（3）循環器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（7）脳・神経 【医学書院】 【サブテキスト】 ・看護技術プラクティス【学研】 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学（4） 臨床看護総論 【医学書院】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 高橋 直美・外部講師	
【科 目 名】 成人看護援助論Ⅳ			
【開講時期】 2年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・治療及び回復が困難な成人の特徴とその看護を理解する ・悪性疾患により長い治療経過にある成人の特徴とその看護を理解する ・終末期にある成人とその家族の特徴と看護を理解する ・生と死をめぐる倫理的課題について他者と意見を共有する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	長い治療経過にある人の特徴と援助方法	緩和ケアの目的と特徴 エント・オブ・ライフケア	高橋直美
2	終末期にある人の特徴と看護	終末期にある人の全人的苦痛の理解	〃
3		終末期における看護師の役割と機能	〃
4		終末期にある患者の痛み 痛みのメカニズム	〃
5		終末期にある患者の痛みに関する薬物管理	〃
6		終末期にある患者の痛みに対する看護	〃
7		終末期における倦怠感・浮腫・呼吸困難のケア	〃
8		化学療法を受ける患者の看護① 看護の特徴	外部講師
9		化学療法を受ける患者の看護② 副作用と対策	〃
10		放射線療法を受ける患者の看護	高橋直美
11		終末期にある人の家族への看護 悲嘆へのケア	〃
12		終末期におけるコミュニケーション技法	〃
13	臨死期の看護	身体的・精神的ケア、死後の処置	〃
14	緩和ケアと生命倫理	生と死をめぐる倫理的課題	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦ 緩和ケア【メディカ出版】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 佐藤 真樹・外部講師	
【科目名】 成人看護援助論Ⅴ			
【開講時期】 2年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・身体侵襲を受けた患者の特徴と看護を理解する ・周術期にある患者と家族の特徴を理解する ・周術期にある患者と家族への看護を理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前に健康障害（病態生理）については自己学習しておくこと ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	身体侵襲を受けた患者への援助方法	ボディイメージの変化の受容過程とその看護	佐藤
2	手術療法をめぐる問題と看護の役割	1) 手術療法とは 2) 手術患者の特徴と問題 3) 患者と家族への心理的援助	〃
3	周術期にある患者と家族への看護	手術前の看護 1) 身体アセスメント 2) 術前訓練	〃
4		3) 術前処置 4) 術前訪問	〃
5		手術中の看護 1) 入室から退室までの援助 2) 手術室看護師の役割	〃
6		手術後の看護 1) 術直後の看護 2) 早期離床 3) 創傷ケア・ドレーン管理	〃
7		4) 術後合併症	〃
8		【演習】ME機器管理、気管挿管の介助	〃
9	機能障害に対する援助と指導	胃切除術を受ける患者の看護	〃
10		人工肛門造設術を受ける患者の看護	外部講師
11		食道摘出術を受ける患者の看護	佐藤
12		冠動脈バイパス術を受ける患者の看護	〃
13		肺葉切除術を受ける患者の看護	〃
14		乳房切除術を受ける患者の看護	〃
15	科目終了試験	試験の解説と講義の振り返り、まとめ	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 【メディカ出版】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（2） 呼吸器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（3） 循環器 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（5） 消化器 【医学書院】 ・ナーシンググラフィカ 疾患と看護⑨ 女性生殖器 【メディカ出版】 【サブテキスト】 ・看護技術プラクティス 【学研】 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学（4） 臨床看護総論 【医学書院】			

【区 分】	専門分野Ⅱ		【担当教員】	齊藤 静子		
【科目名】	老年看護学概論					
【開講時期】	1年次	後期	【単位数】	1単位	【コマ数】	15コマ
【科目目標】 ・ 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解する ・ 老年期にある対象への保健医療福祉の動向を理解する ・ 高齢者を取り巻く倫理的課題について理解する ・ 老年看護の目標を理解する 【授業者】 ・ 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する。 ・ 講義終了後は、テキストや資料をもとに講義内容の復習をおこない理解に努める。						
【回数】	【項目】		【内容】			
1	高齢者の理解		老年期の定義・加齢と老化			
2			老年期の生活の変化			
3			老年期の発達と成熟、多様性			
4			加齢に伴う変化 ①身体・心理・社会			
5			加齢に伴う変化 ②健康の捕らえ方			
6	高齢者のいる家族		家族構成とニーズ			
7			家族の発達課題と機能			
8			高齢者体験 （演習）			
9	高齢者の人権と倫理的問題		高齢者の人生の質の保証			
10			高齢者に対する差別・高齢者虐待			
11			高齢者への身体拘束・高齢者の権利擁護			
12	老年看護の目的		老年看護の目標 ①意思決定 ②生活機能の回復			
13			目標に向けた支援の方法			
14	保健医療福祉の動向		保健医療福祉制度（施設・社会資源）			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り					
【評価方法】 ・ 筆記試験によって評価する						
【テキスト・教科書】 ・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 【医学書院】						

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 高橋 直美、大野 直子	
【科 目 名】 老年看護援助論Ⅰ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・高齢者の加齢による変化を理解する ・高齢者によくみられる身体症状について理解する ・高齢者の生活機能を整えるための援助の方法を理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	高齢者の健康	加齢に伴う身体・認知機能の変化①	高橋直
2		加齢に伴う身体・認知機能の変化②	〃
3		身体症状とアセスメント ①発熱・痛み・かゆみ・脱水	〃
4		②嘔吐・浮腫・倦怠感	〃
5	高齢者の生活機能を整える看護	基本動作	大野直
6		廃用症候群	〃
7		食生活	〃
8		排泄 ①排泄のアセスメントと援助	〃
9		②尿失禁、便秘、下痢の援助	〃
10		清潔	〃
11		生活リズム	〃
12		コミュニケーション① コミュニケーション能力	〃
13		コミュニケーション② アセスメントと援助	〃
14		性・社会参加	〃
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護・病態・疾患論 【医学書院】			

【区 分】 専門分野Ⅱ	【担当教員】 齋藤 真美	
【科目名】 老年看護援助論Ⅱ		
【開講時期】 2年次 後期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・老人の疾病や障害の現れ方の特徴を理解する ・老人の主な疾病や障害の特徴と治療について理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【内容】
1	特有な疾病や障害	摂食・嚥下障害 誤嚥性肺炎
2		老年症候群
3		視覚障害 聴覚障害
4		骨粗鬆症 大腿骨頸部骨折 腰椎圧迫骨折
5		うつ病 せん妄 認知症
6		感染症
7		パーキンソン病・パーキンソン症候群
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する		
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論【医学書院】		

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 大野 直子	
【科 目 名】 老年看護援助論Ⅲ			
【開講時期】 2年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・主な疾病や障害についての看護を理解する ・検査・治療を受ける高齢者の看護について理解する ・生活機能の障害をもった対象に対する看護過程を展開する			
【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	治療を必要とする高齢者の看護	様々な健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	大野直子
2		入院治療を受ける高齢者の看護	〃
3		手術療法時の看護	〃
4		検査時の看護	〃
5		薬物療法時の看護	〃
6	生活・療養の場における看護	ヘルスプロモーション	〃
7		退院調整・退院支援①	〃
8		退院調整・退院支援②	〃
9		治療・介護する高齢者を含む家族への看護	
10	疾患をもつ高齢者への看護	褥瘡の看護	外部講師
11		認知機能障害のある高齢者の看護	大野直子
12	生活機能に着目した看護の展開	目標志向型思考①	〃
13		目標志向型思考②	〃
14		目標志向型思考③	〃
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論【医学書院】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 樋口 明美	
【科目名】 母性看護学概論			
【開講時期】 1年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 1、リプロダクティブ・ヘルスの基礎（概念、生殖、倫理、法や施策と支援、制度） 2、リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向や看護の基本的理解を問う。 3、ウイメンズヘルスに関する看護の基本的な理解を問う。 4、女性のライフサイクル各期における看護を理解する。 【授業者】 ・本科目は助産師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	リプロダクティブ・ヘルスに関する概念①	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義 出生前からのリプロダクティブ・ヘルスケア 性と生殖に関する健康/権利	
2	リプロダクティブ・ヘルスに関する概念②	性（セクシャリティ、セックス、ジェンダー、LGBTなど） ヘルスプロモーション	
3	生殖に関する生理①	ヒトの発生・性分化のメカニズム 受精と胎児の発生（受精と着床）妊娠の成立	
4	生殖に関する生理②	生殖に関する生理① 性行動，性反応（セクシャリティ）	
5	リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向	出生、新生児・乳児・周産期死亡に関する統計 死産・流産、人工妊娠中絶に関する統計	
6	リプロダクティブ・ヘルスに関する法や施策と支援	出生、死亡、日本の母子保健統計の動向 健やか親子21	
7	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理①	母性看護における倫理、人工妊娠中絶と倫理	
8	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理②	生殖補助医療と倫理的課題、出生前診断	
9	リプロダクティブ・ヘルスに関する法・施策と支援①	性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護と施策 母性看護に関する主な法律 女性の就労に関する法律	
10	リプロダクティブ・ヘルスに関する法・施策と支援②	妊婦の就労、職場復帰、男男女共同参画とワークライフ バランス、労働基準法	
11	ウイメンズヘルスの看護の基本的な理解①	思春期・成熟期の健康の課題	
12	ウイメンズヘルスの看護の基本的な理解②	更年期・老年期の健康の課題	
13	ウイメンズヘルスの看護の基本的な理解③	ホルモンの変化と検査・治療など	
14	家族のサポート体制と健康	健康教育・保健指導/家族への支援 母性の世代間伝達	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護 母性看護学①【メジカルフレンド社】 ・病気がみえる VOL.10 産科【メディックメディア】第4版 【サブテキスト】 ・国民衛生の動向 【厚生統計協会】			

【 区 分 】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 高橋 美英子	
【 科 目 名 】 母性看護援助論Ⅰ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・妊娠の維持と胎児発育の経過について理解する ・妊娠経過における妊婦とその家族への看護について理解する。 ・分娩期における産婦とその家族への看護について理解する。 ・異常な妊娠・分娩の経過を理解する ・異常経過のみられる妊婦・産婦とその家族への看護について理解する。 【授業者】 ・本科目は助産師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読み予習してから授業に臨む。(25分) ・授業後は配布資料やテキスト等を用いて授業内容の復習をする。(20分) ・グループで作業があるため協力して学習するための自己学習が必要です。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	オリエンテーション 妊娠の生理・妊娠の経過	科目オリエンテーション	
2	妊婦と胎児のアセスメントと管理①	妊娠期のフィジカルアセスメント・妊婦体験①	
3	妊婦と胎児のアセスメントと管理②	妊娠期のフィジカルアセスメント・妊婦体験②	
4	妊娠期の看護①	健康状態を保持・増進するための看護 グループワーク①パンフレット作成	
5	妊娠期の看護②	グループワーク②パンフレット作成	
6	妊娠期の看護③	グループワーク③パンフレット作成	
7	妊娠期の看護④	グループワーク④発表	
8	妊娠期の異常・合併症と看護①	ハイリスク妊娠 ・妊娠期の感染症 ・妊娠疾患 多胎妊娠 ・妊娠持続期間の異常、異所性妊娠	
9	分娩期の看護①	分娩の要素・分娩経過	
10	分娩期の看護②	分娩期における看護①	
11	分娩期の看護③	分娩期における看護②	
12	分娩期における異常とその看護①	分娩期に予測される異常の予防、判断、看護	
13	分娩期における異常とその看護②	産道、娩出力、胎児および付属物の異常 胎児機能不全 ・分娩時損傷 分娩時異常出血 ・産科処置と産科手術	
14	分娩期における異常とその看護③	帝王切開術	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 以下を総合して評価する。 ・科目終了試験 (50%)・パンフレット作製 (15%) ・受講態度 (15%) ・授業時小テスト (20%)			
【テキスト・教科書】 ・マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② 【メヂカルフレンド社】 ・根拠と事故防止からみた母性看護技術第3版【医学書院】 ・病気がみえる VOL.10 産科【メディックメディア】第4版 【参考図書】 ・根拠がわかる母性看護過程 【南江堂】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 樋口 明美	
【科目名】 母性看護援助論Ⅱ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・ 正常な産褥経過を理解する。 ・ 褥婦の健康と生活のアセスメントが出来る ・ 褥婦と家族への看護を理解する。 ・ 産褥期の健康問題に対する看護が理解できる。 ・ 早期新生児の特徴とセイルの変化を理解できる。 ・ 早期新生児の健康とアセスメントから、健康問題に対する看護が理解できる。 ・ 早期新生児への家族への看護を理解する。 【授業者】 ・ 本科目は助産師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	正常な産褥経過	・ 産褥の定義、 ・ 産褥期の身体的特徴（全身の変化、生殖器、乳房の変化） ・ 褥婦と家族の心理的・社会的変化	
2	産褥の健康と生活のアセスメント	・ 褥婦の全身のアセスメント ・ 退行性変化・分娩による損傷、・母乳育児の状況 ・ 産褥のセルフケアの不足に対する看護、（栄養食事、排泄、清潔、育児準備、活動と休息）	
3	褥婦と家族への看護①	・ 産褥復古に関する支援 ・ 母乳育児への支援、バースレビュー、	
4	褥婦と家族への看護②	・ 親子の愛着形成、育児技術獲得への支援、家族の再構築	
5	産褥期の健康問題に対する看護①	・ 帝王切開について、	
6	産褥期の健康問題に対する看護②	・ 子宮復古不全、乳腺炎、産後精神障害、泌尿器感染 ・ 死産、障害がある新生児を出産した親について	
7	産褥期の技術	・ 子宮底。復位、児心音の聴取、胎児心拍数モニタリング	
8	早期新生児の特徴と生理的变化①	・ 母乳育児新生児の定義と特徴と生理的变化、新生児の反射、 ・ 感覚機能、体温、ビリルビン代謝と生理的黄疸、皮膚	
9	早期新生児の特徴と生理的变化②	・ 新生児の循環、免疫、呼吸、消化と吸収、水電解質代謝と腎機能、生理的体重減少、姿勢、哺乳力、排尿・排便	
10	早期新生児の健康と発育にアセスメント①	・ 出生直後の評価（アプガースコア）、成熟度の評価、奇形 ・ バイタルサイン、奇形の評価、新生児マススクリーニング	
11	早期新生児の健康と発育にアセスメント②	・ 子宮外生活への適応状態のアセスメント	
12	早期新生児と家族への看護①	・ 気道の開通と保温、全身計測、観察、清潔、哺乳、事故防止 ・ 保育環境、感染予防	
13	早期新生児と家族への看護②	・ 健康問題に対する看護（低出生体重児、高ビリルビン血症など	
14	新生児の異常	・ 早産児、低出生体重児、新生児一過性多呼吸、他呼吸異常など ・ 高ビリルビン血症、低血糖症、新生児ビタミンK欠乏症、先天異常	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・ 15回目に科目終了試験を実施 ・ 出席・受講態度・提出物などを総合的に判断する。			
【テキスト・教科書】 ・ マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② 【メヂカルフレンド社】 ・ 根拠と事故防止からみた母性看護技術第3版 【医学書院】 【参考図書】 ・ 根拠がわかる母性看護過程 【南江堂】 ・ 病気がみえる VOL.10 産科【メディックメディア】第4版			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 高橋 美英子	
【科 目 名】 母性看護援助論Ⅲ			
【開講時期】 2 年次 後期		【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・妊娠期、産褥期、新生児期の看護実践に必要な技術を根拠に基づいて実施できる。 ・ウエルネスの視点から周産期における看護過程の情報収集から計画立案までができる。 ・母性看護の対象者の状況や心理をグループワークから理解を深める。 【授業者】 ・本科目は助産師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読み予習してから授業に臨む。（25 分） ・授業後は配布資料やテキスト等を用いて授業内容の復習をする。（20 分）			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	母性看護技術	オリエンテーション・新生児の清潔（沐浴・清拭）	
2	母性看護技術	育児技術（搾乳の援助）	
3	母性看護過程	ウエルネス志向型の看護過程	
4	妊娠期の異常と看護	事例：切迫早産 グループワーク	
5	産褥期の看護過程	事例：正常分娩後の褥婦 グループワーク	
6	産褥期の看護過程	事例：帝王切開分娩後の褥婦 グループワーク	
7	新生児の異常と看護過程	事例：新生児黄疸 グループワーク	
8	終講テスト		
【評価方法】 ・出席・受講態度・提出物などを総合的に判断する。 ・授業時小テスト 5 回（10％） ・母性看護技術事前レポート（5％） ・母性看護技術事後レポート（5％） ・看護過程グループワーク（10％） ・終講テスト（70％）			
【テキスト・教科書】 ・マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② 【メヂカルフレンド社】 ・根拠と自己防止からみた母性看護技術第 3 版 【医学書院】 【参考図書】 ・根拠がわかる母性看護過程 【南江堂】 ・病気がみえる VOL. 10 産科【メディックメディア】第 4 版			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 鈴木 光江	
【科 目 名】 小児看護学概論			
【開講時期】 1 年次 後期		【単位数】 1 単位	【コマ数】 1 5 コマ
【科目目標】 ・小児の成長発達の一般性・共通性・発達の特徴を理解する。 ・小児各期の成長・発達の特徴と健康問題を理解する。 ・小児と家族を取り巻く社会の変化と小児看護において守られるべき権利を理解する。 ・小児と家族を取り巻く社会資源の活用を理解する。 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読み予習してから授業に臨む。(25 分) ・授業後は配布資料やテキスト等を用いて授業内容の復習をする。(20 分)			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	小児看護の特徴	小児看護の対象 児看護の目標と役割 小児看護の変遷	
2	小児の成長・発達	成長・発達とは 一般的原則 影響因子	
3	発達に関する理論	①エリクソン「自我発達理論」②ボウルビィ「愛着理論」	
4		③ピアジェ「認知発達理論」	
5	小児の成長・発達の評価	成長の評価 発達の評価 発達検査 養育環境	
6	小児各期の成長・発達の特徴	小児各期における成長・発達の特徴	
7		乳児期・幼児期の成長・発達の特徴	
8		学童期の特徴と健康問題	
9		思春期の特徴と健康問題	
10	小児の事故と予防	日常生活で起こりやすい事故の特徴と予防	
11	小児の権利	小児の権利に関する法律 治療における意思決定	
12	小児と家族を取り巻く社会と資源の活用	母子保健施策の活用 医療費支援	
13		予防接種	
14		健康診断 学校感染症 医療的ケア児の教育支援 小児看護の課題	
	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・授業・GWへの参加態度、提示された課題の提出状況及び内容も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる小児看護技術【インターメディカ】			

【 区 分 】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 関根 愛実	
【 科 目 名 】 小児看護援助論Ⅰ			
【開講時期】 1年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・小児やその家族と援助関係を形成するために必要な技術を理解する ・小児看護に必要な看護技術を理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する ・授業後テキストや配布資料をもとに復習を行い、理解を深める ・看護技術については授業中や課外で繰り返し練習し、その都度修得するよう努める			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	発達に応じた日常生活の援助①	基本的生活習慣自立への援助 (食事・排泄・清潔・衣類・移動・睡眠)	
2	発達に応じた日常生活の援助①	基本的生活習慣自立への援助 (健康教育・生活指導)	
3	小児の安全で快適な環境	安全で快適な環境、安全教育	
4	小児の遊びと学習	発達段階における遊びと学習の特徴	
5	病気に対する小児の理解と説明	病気に対する小児の理解の特徴 小児の痛みの受け止め方 プレパレーション、ディストラクション	
6	小児への健康教育①	【演習】発達段階にあわせた小児と家族への健康教育	
7	小児への健康教育	【演習】発達段階にあわせた小児と家族への健康教育	
8	小児のアセスメント技術	バイタルサイン、身体計測【演習含む】	
9	検査・処置を受ける小児の看護①	検査・処置を受ける小児と家族への支援	
10	検査・処置を受ける小児の看護②	与薬・輸液管理【演習含む】	
11	検査・処置を受ける小児の看護③	検体採取（採血、採尿、腰椎穿刺）と抑制【演習含む】	
12	小児と安全な医療の場①	小児外来・小児病棟の特徴と安全管理（事故防止・感染予防）	
13	小児と安全な医療の場②	活動制限・感染対策上の隔離が必要な小児と家族への看護	
14	小児と安全な医療の場③	【演習】安全な入院環境の援助	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・小児看護学概論 小児臨床看護総論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真で分かる小児看護技術A【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 柳本 利夫	
【科 目 名】 小児看護援助論Ⅱ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・小児に出現しやすい健康障害を理解する			
【授業者】 ・本科目は医師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	小児の疾病の経過と特徴①	染色体異常	
2	小児の疾病の経過と特徴②	肺炎・気管支炎・気管支喘息	
3	小児の疾病の経過と特徴③	口唇裂・口蓋裂・腸重積症・胃腸炎	
4	小児の疾病の経過と特徴④	川崎病・ファロー四徴症	
5	小児の疾病の経過と特徴⑤	ネフローゼ症候群・尿路感染症	
6	小児の疾病の経過と特徴⑥	アレルギー性紫斑病・股関節脱臼	
7	小児の疾病の経過と特徴⑦	筋ジストロフィー・脳性麻痺	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護学各論 【医学書院】			

【 区 分 】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 関根 愛実	
【 科 目 名 】 小児看護援助論Ⅲ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・ 疾病による小児の身体的・心理的・社会的変化を理解する ・ 小児が疾病をもつことによる、家族への影響を理解する ・ 病期に応じた小児の看護を理解する ・ 小児の疾患・症状に応じた看護の方法を理解する 【授業者】 ・ 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	外来における小児と家族の看護①	外来の特徴と看護の役割 虐待を受けている小児と家族への看護	
2	外来における小児と家族の看護②	救急救命処置が必要な小児と家族の看護 (誤飲・熱傷)	
3	急性症状のある小児と家族の看護①	急性期の特徴 小児の尊厳や人間性への配慮 家族の小児の状況の受け止めと治療の意思決定の援助	
4	急性症状のある小児と家族の看護②	急性症状のある小児と家族の援助	
5	手術を受ける小児と家族の看護①	小児と家族の手術の準備状態の把握とプレパレーション	
6	手術を受ける小児と家族の看護②	手術前後の身体状態のアセスメント 手術を受ける小児と家族の安全・安楽の援助	
7	慢性疾患を持つ小児と家族の看護①	慢性的な経過をたどる疾患の経過と特徴 病気による小児と家族の生活の変化	
8	慢性疾患を持つ小児と家族の看護②	小児の発達とセルフケア獲得の援助 自己管理の支援、学習支援と復学支援、地域連携	
9	慢性疾患を持つ小児と家族の看護③	医療的ケアを必要として退院する小児と家族への援助	
10	予後不良の小児と家族の看護①	小児の死の捉え方、デスエデュケーション 終末期に見られる主な症状と緩和ケア	
11	予後不良の小児と家族の看護②	小児の死を看取る家族の反応と援助	
12	先天異常の小児と家族の看護	起こりやすい合併症の予防と健康管理 障害の受容、発達の促進	
13	心身障害の小児と家族の看護	心身障害の定義と種類 重症心身障害の小児と家族への援助 発達障害の小児と家族への援助	
14	小児の疾患に応じた看護の実践	【演習】気管支喘息の小児の看護（吸入の援助）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・ 15回目に科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・ 小児看護概論 小児臨床看護総論【医学書院】 ・ 小児臨床看護各論【医学書院】			
【サブテキスト】 ・ 写真で分かる小児看護技術 A【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 相馬 奈美	
【科 目 名】 精神看護学概論Ⅰ			
【開講時期】 1年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・心の理解の仕方、心の健康について理解する ・社会的背景と心の健康の関連について理解する ・精神看護の基本姿勢を理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	精神の健康の概念	心の健康とは、精神保健医療の政策と方向性 精神看護の役割の広がり と精神看護の専門性	
2	心の機能と発達（心のとらえ方）	脳と心の関係 自我の構造・機能、自我の発達と防衛機制	
3	心の発達に関する考え方	エリクソンの漸成的発達理論、その他の発達論	
4	ストレスとコーピング	ストレスとは、ストレス対処行動	
5	危機介入①	危機の概念、危機介入の目的と方法 災害時の地域精神保健医療活動の基本	
6	危機介入②	リエゾン精神看護 自殺対策の基本的な考え方（自殺対策基本法概要）	
7	家族と心の健康	家族のライフサイクルの変化、家族システムという考え方	
8	環境と心の健康①	生活の場の特性と心の健康（家庭の場、教育の場）	
9	環境と心の健康②	生活の場の特性と心の健康（職場、地域の場）	
10	援助関係の構築①	患者－看護師関係と相互作用	
11	援助関係の構築②	ペプロウの患者－看護師関係	
12	援助関係の構築③	外口玉子の患者－看護師関係	
13	プロセスレコード①	プロセスレコードの目的・方法	
14	プロセスレコード②	プロセスレコード（演習：場面を客観的に記述する）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド】 ・精神看護学② 精神障害の展開 【メヂカルフレンド】 ・公衆衛生がみえる 【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 外部講師	
【科 目 名】 精神看護学概論Ⅱ			
【開講時期】 2 年次 前期		【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・精神医療の歴史的位置付け、精神障害者の置かれている現状を理解する ・精神保健福祉活動の概要とその法的背景・理念について理解する ・患者の権利擁護と入院患者の処遇についての遵守事項を知る 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	精神保健医療福祉の歴史と看護	諸外国における精神医療の歴史 日本における精神医療の歴史	
2	精神保健福祉法における精神医療の形態と患者の処遇	入院形態、入院患者の処遇と権利擁護	
3	精神科領域で必要な法と制度① ～精神障害を持つ人の地域における生活への支援に関する法律～	精神障害を持つ人と障害者総合支援法 障害年金制度、精神障害者保健福祉手帳制度 障害者雇用促進法	
4	精神科領域で必要な法と制度② ～個別の課題に対応した法律～	発達障害者支援法、医療観察法、犯罪被害者基本法	
5	日本における精神障害者へのケアシステムと支援	入院から地域移行・定着支援までのケアと多職種連携	
6	精神障害者を持つ人をケアする家族へのケア	精神障害者を持つ人をケアする家族へのケア	
7	疾患をめぐる差別と偏見と患者処遇の歴史	【演習】 疾患をめぐる差別と偏見と患者処遇について検討会	
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・演習の内容については、レポートによって評価する			
【テキスト・教科書】 ・精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド】 ・精神看護学② 精神障害の展開 【メヂカルフレンド】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 的場 已知子	
【科 目 名】 精神看護援助論Ⅰ			
【開講時期】 2年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・精神障害の分野と基本的概念を理解する ・精神障害の検査・治療の方法について理解する ・主な精神障害について理解する 【授業者】 ・本科目は医師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	脳の仕組みと精神機能	脳と精神機能、ストレス脆弱性仮説	
2	精神障害者が抱える症状と状態像	精神症状と状態像、中枢神経症状	
3	精神障害の主な診療・検査・薬物療法	診断の基礎と要点、神経学的検査、心理検査	
4	主な精神障害 (統合失調症スペクトラム障害)	統合失調症の概念と変遷 診断基準・症状・病型・経過・治療	
5	主な精神障害 (双極性障害・抑うつ障害・不安障害)	双極性障害、抑うつ障害、不安障害の特徴・症状・治療	
6	主な精神障害 (物質関連障害および嗜癖性障害)	原因となる身体疾患とそれに応じた治療 てんかんの発作の特徴・治療、アルコール依存症、薬物依存症の特徴と治療・社会復帰支援	
7	主な精神障害 (神経発達障害・パーソナリティ障害)	知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠陥/多動性障害、パーソナリティ障害の特徴と治療	
8	主な精神障害 (強迫性障害・食行動障害)	強迫性障害、摂食障害の特徴と治療	
9	主な精神障害 (心的外傷およびストレス因関連障害)	心的外傷後ストレス障害、急性ストレス障害、適応障害の特徴と治療	
10	精神障害の治療の実際 ①	各種治療法について ①	
11	精神障害の治療の実際 ②	各種治療法について ②	
12	精神障害の治療の実際 ③	各種治療法について ③	
13	精神障害の治療の実際 ④	リハビリテーション治療について	
14	精神障害の治療の実際 ⑤	精神医療と法律	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・精神看護学① 精神看護学の基礎 【医学書院】 ・精神看護学② 精神障害の展開 【医学書院】 ・公衆衛生がみえる 【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野Ⅱ		【担当教員】 外部講師	
【科 目 名】 精神看護援助論Ⅱ			
【開講時期】 2年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・精神の状態に応じた看護の方法を理解する ・精神科治療過程における日常生活の援助について理解する ・主な精神障害患者の看護について理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	主な精神症状・精神状態像のとらえ方とその基本的な関わり方①	精神症状・精神状態像の特徴と基本的な関わり方	
2	主な精神症状・精神状態像のとらえ方とその基本的な関わり方②	精神症状・精神状態像の特徴と基本的な関わり方	
3	精神の健康問題を持つ人の生活とセルフケアの援助	栄養・食事、清潔・衣類、排泄、金銭管理	
4	安全な治療環境	病棟環境、行動制限 自殺・自傷・暴力のリスクマネジメント	
5	向精神病薬を使用している患者の看護	抗精神病薬の特徴とその看護、自己服薬への支援	
6	精神疾患の急性期の看護①	治療受け入れへの援助 法の遵守とインフォームドコンセント	
7	精神疾患の急性期の看護②	精神状態と身体状態のアセスメント	
8	精神疾患の急性期の看護③	【演習】統合失調症患者の入院時の看護 強迫性障害患者の入院時の看護	
9	精神疾患の回復期の看護①	回復意欲への援助と休息の援助 コンプライアンス獲得への援助	
10	精神疾患の回復期の看護②	【演習】気分障害患者の看護 神経症性やせ症患者の看護	
11	精神疾患の回復期の看護③	【演習】アルコール依存症患者の看護	
12	精神疾患の慢性期の看護①	家族の支援（心理教育） できることに視点を向けた援助（SST）	
13	精神疾患の慢性期の看護②	【演習】統合失調症患者と家族への援助	
14	地域で生活する精神の健康問題を持つ人の看護	【演習】統合失調症患者と家族への援助	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 【メヂカルフレンド】 ・精神看護学② 精神障害の展開 【メヂカルフレンド】			
【備考】			

統合分野

No.	科目名		学年	開講時期	備考
68	在宅看護論	在宅看護概論Ⅰ	2年生	前期	
69		在宅看護概論Ⅱ	2年生	前期	
70		在宅看護援助論Ⅰ	2年生	前期	
71		在宅看護援助論Ⅱ	2年生	後期	
72	看護の統合と実践	臨床適応Ⅰ	3年生	前期	
73		臨床適応Ⅱ	3年生	前期	
74		臨床適応Ⅲ	3年生	後期	
75		災害看護論	2年生	前期	
76		国際看護論	3年生	後期	

【区 分】 統合分野	【担当教員】 斎藤 真美	
【科目名】 在宅看護概論Ⅰ		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・在宅看護の概念を説明することができる ・在宅看護の歴史的な歩みを説明することができる ・在宅看護に関する法律を説明することができる 【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【項目】	【内容】
1	在宅看護の概念	在宅看護が必要な社会的背景 在宅看護の目的
2	在宅に関する法律と制度	健康保険法 介護保険法
3		療養者・家族の権利擁護
4		虐待の防止 療養者の自立・自律支援
5		障害者総合支援法 高齢者医療の関係法規
6	在宅に関する保健医療福祉	療養者の生活の場 関係職種の理解
7		ケアマネージャーの役割 在宅看護の必要性
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する 【履修条件】		
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護 【インターメディカ】		

【区 分】 統合分野	【担当教員】 高橋 直美	
【科目名】 在宅看護概論Ⅱ		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・在宅看護の対象を述べることができる ・地域での看護活動の内容が説明できる ・在宅看護の特徴が説明できる 【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【項目】	【内容】
1	対象者の理解	在宅看護の対象者(療養者)
2		家族の理解（家族システム理論）・意思決定への支援
3	在宅看護の理解	地域包括ケアシステム
4		訪問看護ステーションの仕組み 開設基準・サービスの展開・管理運営
5		訪問看護の理解（手続き、関係職種との連携）
6		生活の場に応じた看護（外来・施設・在宅）
7	看護の継続	継続看護について 退院支援・退院計画
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する 【履修条件】 ・この科目の単位取得は、在宅看護論実習の履修条件である。		
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護 【インターメディカ】		

【区 分】 統合分野		【担当教員】 齋藤 真美・外部講師	
【科 目 名】 在宅看護援助論Ⅰ			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・在宅看護援助の基本が説明できる ・地域で療養する対象とその家族に必要な技術援助を取得させる			
【授業形態】 ・講義・演習			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	在宅看護の技術 信頼関係の形式	訪問時のマナー ・ 倫理 コミュニケーション・面接の技術	齋藤真
2		訪問看護の展開	〃
3		訪問看護の展開の実際 【演習】	〃
4	生活の支援	摂食嚥下の機能、食事の援助、口腔ケア	〃
5		食事の内容 ・ 調理方法 とろみのつけ方	〃
6		排泄のアセスメント 尿失禁とその予防 排泄用具の使い方	外部講師
7		便失禁とその予防 排便コントロール	〃
8		清潔の援助 家庭で行う清潔援助の工夫	〃
9		内服薬の管理、援助	〃
10		おむつ交換の援助の実際 【演習】	齋藤真
11		日常生活状態のアセスメント（残存機能の維持向上） 居住環境 ・ 褥瘡の予防	
12		日常生活における安全管理	〃
13		移動・移乗の援助	〃
14		移動活動の自立への援助の工夫 転倒予防の工夫 【演習】	〃
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する			
【履修条件】			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論【医学書院】			
【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護 【インターメディカ】			

【 区 分 】	統合分野		【担当教員】	齋藤 真美	
【 科 目 名 】	在宅看護援助論Ⅱ				
【開講時期】	2 年次 後期		【単位数】	1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・在宅看護で必要な医療特殊技術の方法を理解することができる ・在宅療養者の状態に応じた看護の方法を理解することができる 【事前学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。					
【回数】	【項目】	【内容】			
1	在宅看護技術	服薬管理 （自己注射）			
2		在宅酸素療法（HOT）の援助			
3		人工呼吸器装着者の看護 気管カニューレの管理			
4		経管栄養の管理 （経鼻経管栄養、胃瘻） 中心静脈栄養の管理			
5		経鼻経管栄養法、 気管カニューレの管理の実際 【演習】			
6		導尿・膀胱留置カテーテルの管理			
7		ストーマの援助			
8		在宅での緊急時、災害時の看護			
9	療養者にあわせた看護	在宅介入時期の看護			
10		在宅でのリハビリテーション援助			
11		認知症の人の看護			
12		難病を持つ対象者の看護 感染症を持つ対象者の看護			
13		精神障害・小児療養者の看護			
14	在宅における終末期の看護	在宅での終末期看護に必要な知識と技術			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り				
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する 【履修条件】					
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護 【インターメディカ】					

【区 分】 統合分野		【担当教員】 鈴木 光江	
【科目名】 臨床適応Ⅰ（看護管理）			
【開講時期】 3年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・看護マネジメントの基本について理解する ・看護部門の組織と病棟管理者の役割を理解する ・看護師として業務を管理するために必要なことを理解する ・医療・看護の質と評価の考え方を理解する ・看護職としてのキャリア開発について考えることができる ・看護師として働いている自己をイメージできる 【授業者】 ・本科目は看護管理者の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・毎回授業内容を確認し、テキストの該当する項目を読み予習してから授業に臨む（90分） ・講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習をする（90分）			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	看護マネジメントと病院組織の理解	看護マネジメントとは 病院組織 看護組織と職務 病棟管理者の役割	
2	看護師の仕事とマネジメント	健康管理 看護業務管理 勤務体制 夜間業務 リーダーシップ チーム医療における看護の役割	
3	情報のマネジメント	看護と情報 医療情報の電子化 医療情報の取り扱い方 情報開示への対応	
4	医療・看護の質と保障	医療・看護の質とは 医療情報の標準化とクリニカルパス 病院機能評価	
5		病院の病床機能報告 医療保険制度と診療報酬 患者数と看護師数の考え方 重症度と看護必要度	
6	人材育成と活用	継続教育とキャリア開発 認定・専門看護師の資格と活用 特定行為を実施する認定看護師	
7	看護政策と行政	看護師等の確保 ナースセンター 看護師の労働安全衛生 看護政策と行政 看護と職能団体	
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 【医学書院】 ・新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 【メヂカルフレンド社】			

【区 分】 統合分野		【担当教員】 相馬 奈美	
【科目名】 臨床適応Ⅱ（医療安全管理）			
【開講時期】 3年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・基本的な医療安全対策が理解できる。 ・ヒューマンエラーのメカニズムについて理解する。 ・看護師が関与した医療事故やヒヤリハット事例から事故防止対策を立案する			
【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う			
【事前学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する			
【授業形態】 ・講義・演習			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	医療事故の概念	医療安全とは リスクマネジメント	
2		安全管理体制整備と医療安全文化 看護職の法的責任	
3	リスクマネジメントのプロセス	リスクマネジメントのプロセスと分析	
4	インシデントレポート・医療事故分析	RCA 分析の実際（GW）	
5		RCA 分析の実際（GW）	
6	起こりやすい医療事故と対策	与薬、チューブ、カテーテル	
7		転倒、転落	
8		検査、患者誤認	
9	リスクセンストレーニング	危険予知トレーニングの概要（GW）	
10		危険予知トレーニングの実際（GW）	
11	医療事故分析と対策	6つの危険ストーリー①（GW）	
12		6つの危険ストーリー②（GW）	
13		危険ストーリー（ロールプレイ）グループ発表	
14		危険ストーリー（ロールプレイ）グループ発表	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 【メヂカルフレンド社】			

【 区 分 】 統合分野		【担当教員】 大野 享	
【 科 目 名 】 臨床適応Ⅲ（多重課題）			
【開講時期】 3年次 後期		【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・複数患者を受け持つための情報収集・管理ができる ・1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理ができる ・多重課題の危険性を理解する ・多重課題発生時の対処の原則を理解する 【授業者】 ・本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う 【事前学習】 ・授業内容を確認し、該当するテキストの項目を読んで準備をしたうえで授業に参加する 【授業形態】 ・講義・演習			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	多重課題と多重課題の原則	多重課題とは何か、 多重課題の原則 多重課題と医療事故	
2	優先順位のつけ方の基本と時間管理	優先順位のつけ方の基本 情報収集とスケジュールの組み立て方	
3	1日の業務スケジュールの組み立て方	多重課題を踏まえた行動計画	
4	1日の業務スケジュールの立案①	〔演習〕複数患者受け持ち時の行動計画立案（情報収集）	
5	1日の業務スケジュールの立案②	〔演習〕複数患者受け持ち時の行動計画立案（優先順位の判断）	
6	1日の業務スケジュールの立案③	〔演習〕複数患者受け持ち時の行動計画立案（動線の確認）	
7	1日の業務スケジュールの立案④	〔演習〕複数患者受け持ち時の行動計画立案（発表）	
8	多重課題発生時の対処の原則	「4人部屋で生じた多重課題」	
9	事例展開①	〔演習〕多重課題発生時の対応 計画立案	
10	事例展開②	〔演習〕多重課題発生時の対応 計画立案	
11	事例展開③	〔演習〕 〃 （ロールプレイ）	
12	事例展開④	〔演習〕 〃 （ロールプレイ）	
13	グループ発表と検討①	発表	
14	グループ発表と検討②	発表	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・GW参加態度、筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 【メヂカルフレンド社】			

【区 分】 統合分野		【担当教員】 佐藤 真樹・外部講師	
【科目名】 災害看護論			
【開講時期】 2年次 前期		【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・災害の定義を理解する ・災害時にある人々の健康上の問題を理解する ・災害時にある人々の生命や生活を支えるために必要な基礎的知識を理解する ・災害時における看護者の役割を理解する ・援助的な人間関係に基づき、人権尊重、倫理的配慮ができる能力を養う 【授業者】 ・本科目は看護師（災害支援）の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・新潟県中越地震以降に起こった災害の概要を調べておくこと ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	
1	災害医療の基礎	1) 災害の定義・災害の分類・災害ハザード 2) 災害看護の定義と役割 3) 災害関連の法・制度 4) 災害看護と救急看護の違い	
2	災害医療の特徴 災害サイクルに応じた災害看護	1) 災害現場における体系的な対応 2) 災害サイクル別の看護活動 3) 救援体制と提供されるサービス	
3	被災者特性に応じた災害看護の展開（1）	1) 要配慮者・避難行動要支援者とは 2) 要配慮者・避難行動要支援者の特徴	
4	被災者特性に応じた災害看護の展開（2）	3) 要配慮者・避難行動要支援者に対する看護の展開方法 4) こころのケア	
5	被災者への看護ケア	避難所生活を送る被災者へのケア 1) 情報収集の方法 2) 看護活動	
6	災害救援活動（1）	災害現場での実際 1) DMAT とは 2) 災害現場での看護師の役割 3) 救援者へのケア	
7	災害救援活動（2）	【演習】災害救護の方法 包帯法、搬送法、非常食調理	
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・災害看護学 【メヂカルフレンド社】			

【区 分】	統合分野		【担当教員】	山中 麻衣		
【科目名】	国際看護論					
【開講時期】	3年次 後期		【単位数】	1単位	【コマ数】	8コマ
【科目目標】 ・国際看護の必要性和看護の役割を理解する ・国際的視野を持つため、日本と異なる文化を理解する ・国際看護活動を理解する 【授業者】 ・本科目は実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。						
【回数】	【項目】		【内容】			
1	国際看護の概念		1) 国際看護とは何か			
2			2) 国際看護は、なぜ必要か			
3	国際看護の対象者		3) 他国の文化と看護の考え方			
4			4) 世界の健康問題（疾病構造、貧困、栄養など）			
5			5) 世界の保健医療の現状			
6	国際看護の実際		6) 在日外国人の保健、医療、福祉（具体的対応）			
7			7) 国際支援の種類（難民支援、災害時の緊急支援）			
8	科目終了試験					
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する						